

- 十三 左ノ選舉人ハ投票分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ(喧擾ニ涉リ) (投票ニ關シ協議ヲ爲シ)(何々ヲ爲シ)投票分會場ノ秩序ヲ紊シタルニ依リ投票分會長ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハザルヲ以テ投票用紙(投票用紙及封筒)(到着番號札)ヲ返付セシメ之ヲ投票分會場外ニ退出セシメタリ
住所氏 名
- 十四 投票分會長ハ投票分會場外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選舉人ニ對シ投票分會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ
住所氏 名
- 十五 午前(午後)何時ニ至リ投票分會長ハ投票時間ヲ終リタル旨ヲ告グ投票分會場ノ入口ヲ鎖シタリ
住所氏 名
- 十六 投票分會長ノ受ケタル市制第二十五條ノ四ノ投票左ノ如シ
投票分會長自ラ受ケタルモノ 何 票
投票時間終了迄ニ市制町村制施行令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタルモノ 何 票
計 何 票
- 投票分會長ハ投票面閉鎖前投票立會人ノ意見ヲ聽キ前記ノ投票ノ受理如何ヲ決定シ更ニ投票用封筒ヲ開披シテ點字投票ニ付其ノ拒否ヲ決定シタリ
何 人

- 投票ヲ受理スベシト決定シ且點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケザル何票ハ直ニ之ヲ投票シタリ
左ノ何人ノ投票ハ受理スベカラズト決定シ又ハ點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルヲ以テ各其ノ投票用封筒ニ入レ假ニ封緘ヲ施シ其ノ表面ニ不受理ノ決定又ハ點字投票ノ拒否ノ決定アリタル旨ヲ記載シテ之ヲ投票シタリ
不受理ノ決定ヲ受ケタルモノ
住所氏 名
- 點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルモノ
住所氏 名
- 十七 午前(午後)何時投票分會場ニ在ル選舉人ノ投票終了シタルヲ以テ投票分會長ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ
住所氏 名
- 十八 投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スベキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票分會長之ヲ保管ス
住所氏 名
- 十九 投票函及投票録(選舉人名簿ノ抄本又ハ選舉人名簿)ヲ選舉長(第一(何々)開票分會長)ニ送致スベキ投票立會人左ノ如シ
住所氏 名
- 二十 投票ヲ爲シタル選舉人ノ總數
住所氏 名
- 選舉人名簿ノ抄本(又ハ選舉人名簿)ニ記載セラレタル選舉人
住所氏 名

ニシテ投票ヲ爲シタル者

何 人

内

市制第二十五條ノ四ノ投票ヲ爲シタル者 何 人

確定裁決書(判決書)ニ依リ投票ヲ爲シタル者 何 人

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數 何 人

内

假ニ投票ヲ爲サシメタル者 何 人

内

市制第二十五條ノ四ノ投票中受理スベカラズト決定セラレタル投票ヲ爲シタル者 何 人

レタル投票ヲ爲シタル者 何 人

二十一 午前(午後)何時投票分會ノ事務ヲ終了シタリ

二十二 左ノ者ハ投票分會ノ事務ニ從事シタリ
職 氏 名

二十三 投票分會場ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
職 氏 名

投票分會長ハ此ノ投票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ茲ニ署名ス
投票分會長 職 氏 名

昭和何年何月何日
投票立會人 職 氏 名

投票分會長 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

投票立會人 職 氏 名

備考

氏 名

様式ニ掲グル事項ノ外投票分會長ニ於テ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

投票録様式ノ二
大正何年何月何日 行何府(縣)何郡何町(村)會議員選舉第一(何々)投票分會投票録

一 投票分會ハ何町(村)役場(何ノ場所)ニ之ヲ設ケタリ

二 左ノ投票立會人ハ何レモ投票分會ヲ開クベキ時刻迄ニ投票分會ニ參會シタリ
住所氏 名

三 投票分會ヲ開クベキ時刻ニ至リ投票立會人中何人參會セザルニ依リ町(村)長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ
住所氏 名

四 投票分會ハ大正何年何月何日午前(午後)何時ニ之ヲ開キタリ
投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ町(村)長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ
住所氏 名

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故

- ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙投票立會人ハ二人(三人)在リ其ノ員ヲ補フノ必要ナキヲ認メ其ノ補闕ヲ爲サザル旨ヲ宣言シタリ
- 投票分會長ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票分會ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ投票分會長及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ
- 六 投票分會長ハ投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲ選舉人名簿ノ抄本(又ハ選舉人名簿)ニ對照シタル後(到着番號札ト引換ニ)投票用紙ヲ交付シタリ
- 七 選舉人ハ自ら投票ヲ認メ投票分會長及投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ投票シタリ
- 八 左ノ選舉人ハ選舉人名簿ニ登錄セラルベキ確定裁決書(判決書)ヲ所持シ投票分會場ニ到リタルニ依リ投票分會長ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシメタリ
- 九 左ノ選舉人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル旨ヲ申立テタルヲ以テ投票分會長ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタリ
- 十 左ノ選舉人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ(投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ)投票ヲ拒否シタリ

住所氏 名

- タルニ依リ投票分會長ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハザルヲ以テ投票用紙(投票用紙及封筒)(到着番號札)ヲ返付セシメ之ヲ投票分會場外ニ退出セシメタリ
- 十四 投票分會長ハ投票分會場外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選舉人ニ對シ投票分會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ
- 十五 午前(午後)何時ニ至リ投票分會長ハ投票時間ヲ終リタル旨ヲ告ゲ投票分會場ノ入口ヲ鎖シタリ
- 十六 投票分會長ノ受ケタル町村制第二十二條ノ四ノ投票左ノ如シ投票分會長自ら受ケタルモノ
- 十七 投票時間終了迄ニ市制町村制施行令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタルモノ
- 十八 投票分會長ハ投票函閉鎖前記ノ投票ヲ調査シ投票立會人ノ決定ニ付シタルニ依リ投票分會長ハ投票函閉鎖前記ノ投票ヲ調査シ之ガ受理如何ヲ投票立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ投票分會長之ヲ決定シ)更ニ投票用封筒ヲ開披シテ點字投票ニ付調査シ投票立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ投票用封筒ヲ開披シテ點字投票ニ付調査シ之ガ拒否ヲ投票立會人ノ

住所氏 名

- 左ノ選舉人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ(投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ)投票ヲ拒否シタルモ同選舉人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ(投票分會長又ハ投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ)投票用紙ト共ニ封筒ヲ交付シ假ニ投票ヲ爲サシメタリ
- 十一 左ノ選舉人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ(投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ)點字投票ヲ拒否シタリ
- 十二 左ノ選舉人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ(投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ)投票ヲ拒否シタルモ同選舉人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ(投票分會長又ハ投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ)投票用紙及封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ假ニ點字投票ヲ爲サシメタリ
- 十三 左ノ選舉人ハ誤リテ投票用紙(封筒)ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙(封筒)ヲ交付シタリ
- 十四 投票分會長ハ投票分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ(喧擾ニ涉リ)決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ投票分會長之ヲ決定シタリ
- 十五 投票ヲ受理スベシト決定シ且點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケザル何票ハ直ニ之ヲ投票シタリ
- 十六 左ノ何人ノ投票ハ受理スベカラズト決定シ又ハ點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルヲ以テ各其ノ投票用封筒ニ入レ假ニ封緘ヲ施シ其ノ表面ニ不受理ノ決定又ハ點字投票ノ拒否ノ決定アリタル旨ヲ記載シテ之ヲ投票シタリ
- 十七 點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルモノ
- 十八 午前(午後)何時投票分會場ニ在ル選舉人ノ投票終了シタルヲ以テ投票分會長ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ
- 十九 投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ内蓋ノ鎖ハ投票函ヲ送致スベキ左ノ投票立會人ノ保管シ外蓋ノ鎖ハ投票分會長之ヲ保管ス
- 二十 投票函及投票簿(選舉人名簿ノ抄本又ハ選舉人名簿)ヲ選舉長(第一(何々)開票分會長)ニ送致スベキ投票立會人左ノ如シ
- 二十一 投票ヲ爲シタル選舉人ノ總數

住所氏 名

- 決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ投票分會長之ヲ決定シタリ
- 投票ヲ受理スベシト決定シ且點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケザル何票ハ直ニ之ヲ投票シタリ
- 左ノ何人ノ投票ハ受理スベカラズト決定シ又ハ點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルヲ以テ各其ノ投票用封筒ニ入レ假ニ封緘ヲ施シ其ノ表面ニ不受理ノ決定又ハ點字投票ノ拒否ノ決定アリタル旨ヲ記載シテ之ヲ投票シタリ
- 點字投票ノ拒否ノ決定ヲ受ケタルモノ
- 午前(午後)何時投票分會場ニ在ル選舉人ノ投票終了シタルヲ以テ投票分會長ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ
- 投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ内蓋ノ鎖ハ投票函ヲ送致スベキ左ノ投票立會人ノ保管シ外蓋ノ鎖ハ投票分會長之ヲ保管ス
- 投票函及投票簿(選舉人名簿ノ抄本又ハ選舉人名簿)ヲ選舉長(第一(何々)開票分會長)ニ送致スベキ投票立會人左ノ如シ
- 投票ヲ爲シタル選舉人ノ總數

選舉人名簿ノ抄本(又ハ選舉人名簿)ニ記載セラレタル選舉人ニシテ投票ヲ爲シタル者ハ...

町村制第二十二條ノ四ノ投票ヲ爲シタル者ニ於テ確定裁決書(判決書)ニ依リ投票ヲ爲シタル者...

假ニ投票ヲ爲サシメタル者 何人

町村制第二十二條ノ四ノ投票中受理スベカラズト決定セラレタル投票ヲ爲シタル者 何人

レタル投票ヲ爲シタル者 何人

二十一 午前(午後)何時投票分會ノ事務ヲ了シタル者

二十二 左ノ者ハ投票分會ノ事務ニ從事シタル者

二十三 投票分會場ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

投票分會長 何人
投票立會人 何人

大正何年何月何日

職氏 名
職氏 名
職氏 名
職氏 名

證明書 何々ノ事由ニ因リ證明書ヲ提出スルコト能ハザル旨ヲ疏明ス

計 何人

左ノ選舉人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル旨ヲ申立テタルヲ以テ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタル者

住所氏 名
住所氏 名
住所氏 名

請求 昭和何年何月何日
事由 何鐵道何線鐵道列車業務中
證明書 提出セズ
拒絕事由 正當ノ事由ナク證明書ヲ提出セズ

證明書 官職氏名ノ證明書
拒絕事由 選舉人名簿ニ登錄セラレズ(何々)

選舉分會長(投票分會長)ニ於テ投票時間終了迄ニ送致ヲ受ケタル投票左ノ如シ

市制町村制施行令第二十八條第一項ノ附則書様式

何府(縣)何市(何郡何町(村))會議員(何選舉區)選舉長(何々投票分會長)市制町村制施行令第二十八條第一項ノ附則書

左ノ選舉人ハ市制町村制施行令第二十二條乃至第二十四條ノ規定ニ依リ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求シタルニ依リ該當事項アリト認メ之ヲ交付シ投票ヲ爲サシメタル者

住所氏 名

證明書 官職氏名ノ證明書

住所氏 名

證明書 召集令狀ヲ提示シ證明書ノ提出ニ代フ

住所氏 名

昭和何年何月何日受

住所氏 名

證明書 召集令狀ヲ提示シ證明書ノ提出ニ代フ

住所氏 名

選舉長(投票分會長)ハ此ノ願末書ヲ作リ茲ニ署名ス

昭和何年何月何日

住所氏 名

開票分會ヲ開クベキ時刻ニ至リ開票立會人中參會スル者三人ニ達

七ザルニ依リ市長(區長)ハ臨時ニ開票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シ

三 開票分會ハ昭和何年何月何日午前(午後)何時ニ之ヲ開キタリ

四 開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セザルニ至リタルニ依リ市長(區長)ハ臨時ニ開票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住 所 氏 名

五 開票分會ノ區劃内ノ各投票分會長ヨリ投票函等左ノ如ク到着セ

第一(何々)投票分會ノ投票函ハ投票分會長職氏名及投票立會人氏名攜帶シ何月何日午前(午後)何時著之ヲ檢スルニ異狀ナシ

第二(何々)投票分會ノ投票函何々

六 昭和何年何月何日開票分會長ハ開票分會ノ區劃内ノ投票分會長ヨリ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日(翌日)午前(午後)何時ヨリ開票ヲ開始シタリ

七 開票分會長ハ開票立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數 何 票
投票人總數 何 人

外 假ニ爲シタル投票數

假ニ爲シタル投票人數

投票總數ト投票人總數ト符合ス(投票總數ト投票人總數ト符合セズ即チ投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多シ(少シ)(其ノ理由ノ明ナルモノハ之ヲ記載スベシ))

八 投票分會ニ於テ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住 所 氏 名

住 所 氏 名

住 所 氏 名

住 所 氏 名

九 開票分會長ハ(假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上)(總テノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ)

十 開票事務ニ從事スル職氏名及職氏名ノ二人ハ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算シタリ

十一 開票分會長ニ於テ開票立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無効ト決定

シタル投票左ノ如シ

一 有效ト決定シタルモノ 何 票
一 無効ト決定シタルモノ 何 票

内

一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ 何 票
二 議員候補者ニ非ザル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ 何 票
三 、 、 、 、 、 、 、 、 、 何 票

總計 何 票

十二 午前(午後)何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ開票分會長ハ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シタリ

十三 各議員候補者ノ得票數左ノ如シ

何 票 氏 名
何 票 氏 名

十四 開票分會長ハ點檢済ニ保ル投票ノ有效無効及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無効ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ區別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無効及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

十五 午前(午後)何時開票分會ノ事務ヲ終了シタリ

十六 左ノ者ハ開票分會ノ事務ニ從事シタリ

職 氏 名
職 氏 名

十七 開票分會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官 職 氏 名

開票分會長 何 氏 名
職 氏 名
開票立會人 何 氏 名
氏 名

備考

様式ニ掲グル事項ノ外開票分會長ニ於テ開票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

開票様式ノ二

大正何年何月何日何府(縣)何郡何町(村)會議員選舉第一(何々)行

執 開票分會開票錄

一 開票分會ハ何町(村)役場(何ノ場所)ニ之ヲ設ケタリ

二 左ノ開票立會人ハ何レモ開票分會ヲ開クベキ時刻迄ニ開票分會ニ參會シタリ

住 所 氏 名
住 所 氏 名

開票分會ヲ開クベキ時刻ニ至リ開票立會人中何人參會セザルニ依リ町(村)長ハ臨時ニ開票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登録

セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住所氏 名

- 三 開票分會ハ大正何年何月何日午前(午後)何時ニ之ヲ開キタリ
- 四 開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ爲其ノ定數ヲ開キタルニ依リ町(村)長ハ臨時ニ開票分會ノ區劃内ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前(午後)何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住所氏 名

- 五 開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(午後)何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙開票立會人ハ二人(三人)在リ其ノ開票分會ノ必要ナキヲ認メ其ノ補闕ヲ爲サザル旨ヲ宣言シタリ
- 六 開票分會ノ區劃内ノ各投票分會長ヨリ投票函等左ノ如ク到著セ

- 第一(何々)投票分會ノ投票函ハ投票分會長職氏名及投票立會人氏名携帶シ何月何日午前(午後)何時著之ヲ檢スルニ異狀ナシ
- 第二(何々)投票分會ノ投票函何々

- 六 大正何年何月何日開票分會長ハ開票分會ノ區劃内ノ投票分會長ヨリ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日(翌日)午前(午後)何時ヨリ開票ヲ開始シタリ
- 七 開票分會長ハ開票立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數 何 票
投票人總數 何 人

外

- 假ニ爲シタル投票總數 何 票
- 假ニ爲シタル投票人總數 何 人
- 投票總數ト投票人總數ト符合ス(投票總數ト投票人總數ト符合セズ即チ投票總數ニ比シ何票多シ(少シ)(其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スベシ))
- 八 投票分會ニ於テ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住所氏 名

- 開票分會長ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人左ノ通之ヲ決定シタリ
- (開票分會長ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ決定ニ付シタルモ可否同數ナルニ依リ開票分會長左ノ通之ヲ決定シタリ)

受理セシモノ 住所氏 名
一事由何々 住所氏 名

- 九 開票分會長ハ(假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上)總テノ投票ヲ混同シ開票立會人
- 受理セザリシモノ 住所氏 名
一事由何々 住所氏 名

ト共ニ之ヲ點檢シタリ

- 十 開票事務ニ從事スル職氏名及職氏名ノ二人ハ各別ニ同一被選舉人ノ得票數ヲ計算シタリ
- 十一 有效又ハ無効ト決定シタル投票左ノ如シ

(一)開票立會人ニ於テ決定シタル投票數 何 票
内 一 有效ト決定シタルモノ 何 票
一 無効ト決定シタルモノ 何 票

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ 何 票
- 二 現ニ町(村)會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ 何 票
- 三 各被選舉人ノ得票數左ノ如シ 何 票

(二)開票立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ開票分會長ニ於テ決定シタル投票數 何 票

- 内 一 有效ト決定シタルモノ 何 票
- 一 無効ト決定シタルモノ 何 票
- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ 何 票
- 二 現ニ町(村)會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ 何 票

三

(三)投票總數 何 票

内 一 有效ト決定シタルモノ 何 票
一 無効ト決定シタルモノ 何 票

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ 何 票
- 二 現ニ町(村)會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ 何 票
- 三 各被選舉人ノ得票數左ノ如シ 何 票

十四 開票分會長ハ點檢濟ニ保ル投票ノ有效無効及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無効ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無効及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

- 十五 午前(午後)何時開票分會ノ事務ヲ結了シタリ
- 十六 左ノ者ハ開票分會ノ事務ニ從事シタリ 職氏 名

職氏 名

十七 開票分會ニ臨監シタル會吏左ノ如シ 官職氏 名

開票分會長ハ此ノ開票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日

開票分會長

職氏

名

開票立會人

氏

名

氏

名

備考

様式ニ掲グル事項ノ外開票分會長ニ於テ開票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

市制町村制施行令第二十四條第一項ノ規定ニ依ル證明書様式

證明書

住 所 何府(縣)何市(何郡何町(村))大字何(町)何番地
職 業 何々(成ル可ク明細ニ記載スルコト)

選舉人 氏

名

右ハ左ノ事由ニ因リ昭和何年何月何日執行ノ何府(縣)何市(何郡何町(村))會議員選舉ノ當日投票時間内ニ自ら選舉會場(投票分會場)ニ到リ投票ヲ爲シ能ハザルベキ者ナルコトヲ證明ス

昭和何年何月何日

官職(何丸船長)(何業務主)

氏 名印

一 昭和何年何月何日午前(午後)何時何丸(總噸數何噸)ニ乗組ミ何港出帆何航路ヲ何地へ航海昭和何年何月何日午前(午後)何時何港歸著

〔一 昭和何年何月何日午前(午後)何時何丸(總噸數何噸)ニ乗組ミ何港出帆何地沖合ニ於テ何々漁業ニ從事シ(何々ニ從事シ)昭和何年何月何日午前(午後)何時何港歸著〕

〔一 昭和何年何月何日午前(午後)何時何驛發何鐵道何線鐵道列車ニ乗務シ昭和何年何月何日午前(午後)何時何驛歸著〕

〔一 昭和何年何月何日午前(午後)何時ヨリ昭和何年何月何日午前(午後)何時迄何市(何郡何町(村))大字何(町)(何々)ニ於テ選舉事務〔選舉會場(投票分會場)ノ監視(選舉取締)(何々)ニ從事中〕

〔一 昭和何年何月何日午前(午後)何時ヨリ昭和何年何月何日迄演習召集教育召集ノ爲何部隊(何々)ニ召集中〕

〔一 昭和何年何月何日午前(午後)何時何艦船ニ乗組ミ何港出帆何地へ航海昭和何年何月何日午前(午後)何時何港歸著〕

〔一 昭和何年何月何日午前(午後)何時ヨリ昭和何年何月何日午前(午後)何時迄何府(縣)何市(何郡何町(村))(町村名明ナラザルトキハ之ヲ省略スルモ妨ナキコト)ニ於テ其ノ例トスル所ニ從ヒ何々(職務又ハ業務ヲ成ル可ク明細ニ記載スルコト)ニ從事中〕

備考

職業ノ記載ニ付テハ市制町村制施行令第二十二條第一項第七號ニ

議員候補者 氏 名

職 業 何々(官吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト)

住 所 何市大字何(町)何番地

生年月日 何年何月何日

選 舉 昭和何年何月何日執行ノ市會議員選舉

右別紙供託ヲ證スベキ書面相添立候補届出候也

昭和何年何月何日

氏 名印

何市(區)長 氏 名宛

議員候補者ノ推薦届出書様式

市會議員候補者推薦届

議員候補者 氏 名

職 業 何々(官吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト)

住 所 何市大字何(町)何番地

生年月日 何年何月何日

選 舉 昭和何年何月何日執行ノ市會議員選舉

推薦届出者 氏 名

住 所 何市大字何(町)何番地

生年月日 何年何月何日

(推薦届出者) (氏 名)

(住 所) (何市大字何(町)何番地)

職氏 名

十七 開票分會ニ臨監シタル會吏左ノ如シ 官職氏 名

開票分會長ハ此ノ開票録ヲ作り之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日

開票分會長

職氏

名

開票立會人

氏

名

氏

名

備考

様式ニ掲グル事項ノ外開票分會長ニ於テ開票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

市制町村制施行令第二十四條第一項ノ規定ニ依ル證明書様式

證明書

住 所 何府(縣)何市(何郡何町(村))大字何(町)何番地
職 業 何々(成ル可ク明細ニ記載スルコト)

選舉人 氏

名

右ハ左ノ事由ニ因リ昭和何年何月何日執行ノ何府(縣)何市(何郡何町(村))會議員選舉ノ當日投票時間内ニ自ら選舉會場(投票分會場)ニ到リ投票ヲ爲シ能ハザルベキ者ナルコトヲ證明ス

昭和何年何月何日

議員候補者 氏 名

職 業 何々(官吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト)

住 所 何市大字何(町)何番地

生年月日 何年何月何日

選 舉 昭和何年何月何日執行ノ市會議員選舉

右別紙供託ヲ證スベキ書面相添立候補届出候也

昭和何年何月何日

氏 名印

何市(區)長 氏 名宛

議員候補者ノ推薦届出書様式

市會議員候補者推薦届

議員候補者 氏 名

職 業 何々(官吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト)

住 所 何市大字何(町)何番地

生年月日 何年何月何日

選 舉 昭和何年何月何日執行ノ市會議員選舉

推薦届出者 氏 名

住 所 何市大字何(町)何番地

生年月日 何年何月何日

(推薦届出者) (氏 名)

(住 所) (何市大字何(町)何番地)

(生年月日)(何年何月何日)
有別紙供託ヲ證スベキ書面相添推薦届出候也
昭和何年何月何日

何市(區)長 氏 名宛

氏 名印
(氏 名印)

議員候補者タルコトヲ辯スルコトノ届出書様式

市會議員候補者辭退届

議員候補者 氏 名

事由 由 昭和何年何月何日何々ノ爲被選舉權ヲ有セザルニ至リタ

右辭退届出候也

昭和何年何月何日

議員候補者 氏

名印

何市(區)長 氏 名宛

備考

事由ハ被選舉權ヲ有セザルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辯スル場合ニ限リ記載スベシ

市町村歳入歳出豫算様式

大正何年度何府(縣)何市(何郡何町(村))歳入歳出豫算

大正何年度何府(縣)何市(何郡何町(村))歳入歳出豫算

歳入

歳入(一)何市(區)長(氏)宛
入金(預金) 歳入豫算高

入金(現金) 經常部豫算高
入金(現金) 臨時部豫算高

合計金 歳出 歳出豫算高

入金(現金) 經常部豫算高
入金(現金) 臨時部豫算高

合計金 歳入歳出差引

歳計剩餘金ヲ翌年度ニ繰越サズシテ基本財産ニ編入セントスル場合ニハ左ノ通り記載スベシ

歳計剩餘金ハ全部基本財産ニ編入
又ハ 歳計剩餘金ノ内何歩基本財産ニ編入

科 款	項 目	豫 算 額	種 目	豫 算		説 明	
				本年度豫算額	前年度豫算額	増	減 附記
一 財産ヨリ生ズル収入	一 基本財産収入	圓	一何々	圓	圓		
	二 小學校(何學校)基本財産収入		二何々				
	三 何々		三何々				
二 使用料及手数料	一 使用料		一何々				
			二何々				
			三何々				

三 交付金		二 手 數 料	
一 國稅徵收交付金	一 何	一 何	二 何
二 府(縣)稅徵收交付金	一 何	一 何	一 何
三 水利組合費徵收交付金	一 何	一 何	一 何
四 何	一 何	一 何	一 何
四 國庫下渡金		一 何	一 何
一 義務教育費下渡金	一 何	一 何	一 何
五 納付金		一 何	一 何
一 納付金	一 何	一 何	一 何

六 報 償 金		七 國庫補助金		八 府(縣)補助金	
一 報 償 金	一 何	一 水道費補助	一 何	一 傳染病豫防費補助	一 何
二 下水道費補助	一 何	二 下水道費補助	一 何	二 道路費補助	一 何
三 何	一 何	三 何	一 何	三 何	一 何
三 何	一 何	三 何	一 何	三 何	一 何

九 寄附金		十 繰入金		十一 財産賣拂代金	
一 小學校(何學校)建築費指定寄附	二 道路修繕費指定寄附	三 何々	一 小學校(何學校)積立金繰入	二 基本財産繰入	三 水道經濟ヨリ繰入
一何	一何	一何	一何	一何	一何
二何	二何	二何	二何	二何	二何
三何	三何	三何	三何	三何	三何
四何	四何	四何	四何	四何	四何
五何	五何	五何	五何	五何	五何
六何	六何	六何	六何	六何	六何
七何	七何	七何	七何	七何	七何
八何	八何	八何	八何	八何	八何
九何	九何	九何	九何	九何	九何
十何	十何	十何	十何	十何	十何
十一何	十一何	十一何	十一何	十一何	十一何
十二何	十二何	十二何	十二何	十二何	十二何
十三何	十三何	十三何	十三何	十三何	十三何
十四何	十四何	十四何	十四何	十四何	十四何
十五何	十五何	十五何	十五何	十五何	十五何
十六何	十六何	十六何	十六何	十六何	十六何
十七何	十七何	十七何	十七何	十七何	十七何
十八何	十八何	十八何	十八何	十八何	十八何
十九何	十九何	十九何	十九何	十九何	十九何
二十何	二十何	二十何	二十何	二十何	二十何

十一 財産賣拂代金		十二 繰越金		十三 雑収入	
一 土地賣拂代金	二 物件賣拂代金	三 何々	一 前年度繰越金	一 小學校(何學校)雜入	二 繰替金戻入
一何	一何	一何	一何	一何	一何
二何	二何	二何	二何	二何	二何
三何	三何	三何	三何	三何	三何
四何	四何	四何	四何	四何	四何
五何	五何	五何	五何	五何	五何
六何	六何	六何	六何	六何	六何
七何	七何	七何	七何	七何	七何
八何	八何	八何	八何	八何	八何
九何	九何	九何	九何	九何	九何
十何	十何	十何	十何	十何	十何
十一何	十一何	十一何	十一何	十一何	十一何
十二何	十二何	十二何	十二何	十二何	十二何
十三何	十三何	十三何	十三何	十三何	十三何
十四何	十四何	十四何	十四何	十四何	十四何
十五何	十五何	十五何	十五何	十五何	十五何
十六何	十六何	十六何	十六何	十六何	十六何
十七何	十七何	十七何	十七何	十七何	十七何
十八何	十八何	十八何	十八何	十八何	十八何
十九何	十九何	十九何	十九何	十九何	十九何
二十何	二十何	二十何	二十何	二十何	二十何

十四	市(町)(村)稅																						
一	地租附加稅																						
二	特別地稅附加稅 (特別地稅)																						
三	營業收益稅附加稅																						
四	所得稅附加稅																						
五	礦業稅附加稅																						
六	砂礦區稅附加稅																						
七	取引所營業稅附加稅																						

十五	夫役及現品																						
十四	特別稅何々																						
十三	特別稅戶別割																						
十二	特別稅段別割																						
十一	特別稅戶數割																						
十	府(縣)稅雜種稅附加稅																						
九	府(縣)稅營業稅附加稅																						
八	府(縣)稅家屋稅附加稅																						

一 報 酬	二 供 進 金	三 雜 給	四 需 用 費	二 會 議 費		三 役 所 (役 場) 費	一 夫 役	二 現 品	一 市 (町) (村) 債	二 市 (町) (村) 債	歲 入 合 計	歲 出	經 常 部	科 目	款 項	一 神 社 費	一 神 價 幣 帛 料	國	種 目	本 年 度 豫 算 額	前 年 度 豫 算 額	增 減	附 記		
				一 何 々	二 何 々												一 何 々	二 何 々	一 何 々					二 何 々	一 何 々

一 報 酬	二 供 進 金	三 雜 給	四 需 用 費	二 會 議 費		三 役 所 (役 場) 費	一 夫 役	二 現 品	一 市 (町) (村) 債	二 市 (町) (村) 債	歲 入 合 計	歲 出	經 常 部	科 目	款 項	一 神 社 費	一 神 價 幣 帛 料	國	種 目	本 年 度 豫 算 額	前 年 度 豫 算 額	增 減	附 記			
				一 何 々	二 何 々												一 何 々	二 何 々	一 何 々					二 何 々	一 何 々	二 何 々

三需用費		四修繕費		五何々		六學事諸費		七傳染病預防費	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一給	二給

八傳染病院(隔離病舎)費		三需用費		二雜給		一給料	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何

四修繕費		三需用費		二雜給		一給料	
一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何

九 汚物掃除費		十 病院(何病院)費		三 需用費		二 需用費		一 給料		三 股備費		二 需用費		一 給料		二 雜給	
二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆

三 需用費		二 雜給		一 給料		十一 水道費		四 修繕費		三 需用費		二 雜給		一 給料		二 何	
二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何	二何	一何
☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆

十三 屎場費	十二 下水道費		十一 水費		十 電話費		九 火災保險費		八 養育費		七 警備費		六 給食費		五 修繕費		四 作業費	
	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費

十四 公園(何公園)費	十三 電話費		十二 火災保險費		十一 養育費		十 警備費		九 給食費		八 修繕費		七 作業費		六 雜給		五 需用費		四 雜給	
	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費	一 雜給	二 需用費

		十九 勸業諸費		十八 市道費		十七 市道費		十六 市道費		十五 市道費	
二十 電氣事業費		一 害蟲驅除豫防費		二 修繕費		三 需用費		四 需用費		五 需用費	
一 給料			二 何々								

		二十一 瓦斯事業費		二十 電氣事業費		十九 勸業諸費		十八 市道費		十七 市道費	
三 雜給		一 給料		四 何々		三 需用費		二 雜給		一 何々	

科	款	項	目	預算額		本年度預算額	前年度預算額	增	減	附記
				一	二					
三十二 雜支出		一 滯納處分費	一何							
			二何							
			三何							
三十三 豫備費	一 豫備費	二 過年度支出	一何							
			二何							
			三何							
經常部計	三 繰替金	一 何	一何							
			二何							
			三何							
臨時部			一何							
			二何							
			三何							

科	款	項	目	預算額		本年度預算額	前年度預算額	增	減	附記
				一	二					
一 神 社 費		一 供 通 金	一何							
			二何							
			三何							
二 役所(役場)管 繕費		一 建 築 費	一何							
			二何							
			三何							
三 土 木 費		二 修 繕 費	一何							
			二何							
			三何							
		一 道 路 橋 梁 費	一何							
			二何							
			三何							

五 傳染病豫防費										四 小學校(何學校) 警備費					三 用 惡 水 路 費					二 治 水 堤 防 費	
										一 建 築 費											
										二 修 繕 費											
										一 何											
										二 何											

七 病院(何病院) 警備費										六 傳染病院(隔離病舎) 警備費												一 給 料	
										二 雜 給													
										三 需 用 費													
										一 何													
										二 何													

財産賣拂代及市町村債ノ如キハ之ヲ臨時部ニ編入スベシ雜收入中臨時事業ニ伴フ不用品賣拂代金ノ如キ亦臨時部ニ屬スルモノトス仍
 經常臨時ノ二部ニハ各計ヲ設ケ更ニ歳入合計ヲ掲載スベシ
 二 歳出ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要ナキトキハ各款ヲ通シテ歳出合計ヲ掲載スベシ
 三 歳算金額ハ單位ニ止マルモ妨ガナシ
 四 増減額ノ減ハ朱書ト爲シ又ハ△印ヲ附スベシ
 五 歳算説明ノ部分ハ別ニ調整スルモ妨ガナシ
 六 歳入

イ 基本財産ハ一設ト特別トヲ区分シ且特別基本財産ハ其ノ種類ノ異ナル毎ニ別項ト爲スベシ例ヘバ「小學校(又ハ何學校)基本財産」
 「公園(何公園)基本財産」等ノ如シ
 羅 歳算説明欄ニハ歳算ノ計算ノ基ヲ所ヲ明ナラシムルヲ旨トシ種目ノ分別ニ付テハ特ニ注意スベシ例ヘバ財産ヨリ生ズル收入(款)基
 本財産收入(項)ノ説明ニ付テハ種目ハ「小作米」、「貸地料」、「木竹其ノ他賣拂代金」、「貸家料」、「貸付金穀利子」、「預金利子」、「公
 債利子」、「社債利子」、「株券配當金」等ノ類トシ其ノ附記欄ニハ「小作米」ニ付テハ土地ノ所在地、地目、段別、一段歩當、數量、單
 價及金額又「貸地料」ニ付テハ土地ノ所在地、地目、段別又ハ坪數及金額ヲ掲載シ其ノ地上權者ヨリ取得スル地代、永小作權者ヨリ
 取得スル小作料、土地ノ賃借人ヨリ取得スル借賃ノ類ニシテ現米ナルトキハ總テ之ヲ「小作米」ニ、現金ナルトキハ總テ之ヲ「貸地
 料」ニ算入スベシ又「木竹其ノ他賣拂代金」トハ立木竹ノ賣拂代金ハ勿論落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取又ハ採
 掘等ノ種別ニ從ヒ各數量、單價及金額ヲ掲載スベシ
 ハ 使用料(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ市町村制ニ所謂使用料例ヘバ「公園(何公園)使用料」、「屠場使用料」、「水道使用料」ノ如キ
 ハ勿論他ノ法令ニ依ル使用料例ヘバ「小學校(何學校)授業料」、「幼稚園(何幼稚園)保育料」、「圖書閱覽料」、「道路占用料」ノ類ヲモ
 掲載シ其ノ各附記欄ニハ件數、金額ヲ掲載スベシ
 ニ 手数料(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ亦市町村制ニ所謂手数料例ヘバ「證明手数料」、「督促手数料」ノ如キハ勿論他ノ法令ニ依ル手
 數料例ヘバ「戶籍手数料」、「寄留手数料」、「馬籍簿閱覽手数料」ノ類ヲモ掲載シ其ノ各附記欄ニハ件數、金額ヲ掲載スベシ
 七 雜收入ノ項ハ小學校(何學校)雜入、練替金戻入、加入金等ノ類トシ其ノ説明種目例ヘバ「小學校(何學校)雜入」ニ對シテハ「物件賣拂代
 金」、「不用品賣拂代金」ノ類、又「練替金戻入」ニ對シテハ「召集旅費練替金戻入」、「行旅病人及死亡人取扱費練替金戻入」、「精神病者監

八 市町村稅中地租其ノ他ノ各稅附加稅ニ付テハ說明附記欄ニ其ノ本稅額及課率ヲ掲載シ仍特別稅戶數割又ハ戶數割ヲ賦課セザル市町村
 二於テ戶數割ニ代ヘ賦課スル家屋稅附加稅ニ付テハ現在戶數及平均一戶當ノ金額ヲモ掲載スベシ

九 歳出
 イ 歳算説明ノ欄ニハ計算ノ基ヲ所ヲ明ナラシムルヲ旨トシ種目ノ分別ニ付テハ特ニ注意スベシ例ヘバ役所(役場)費(款)報酬(項)ノ説
 明ニ付テハ種目ハ「町(村)長報酬」、「市參事報酬」、「助役報酬」、「區長報酬」、「區長代理者報酬」、「委員(何委員)報酬」ノ類トシ其
 ノ各附記欄ニハ例ヘバ「町(村)長報酬」ニ付テハ一年何回ノ類ヲ掲載スベシ
 ロ 給料(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ「市(町)(村)長給料」、「市參事給料」、「助役給料」、「收入役給料」等ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ
 例ヘバ「助役給料」ニ付テハ年俸又ハ月俸何回幾人ノ類ヲ掲載スベシ
 ハ 雜給(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ「費用辨償」、「旅費」、「手當」、「給仕及使丁給」、「傭人料」、「賞與」、「退職料」、「退職給與
 金」、「死亡給與金」、「遺族扶助料」ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「費用辨償」ニ付テハ町(村)長何回助役何回ト掲載スベシ
 ニ 需用費(項)ニ對スル説明種目ノ欄ニハ「備品費」、「消耗品費」、「印刷費」、「通信運搬費」、「賄費」、「被服費」、「借家料」、「電燈費」、
 「電話費」、「雜費」ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「備品費」ニ付テハ何器具新調費何回、何機械修繕費何回、書籍購買代金何回、
 又「消耗品費」ニ付テハ紙紙墨代金何回、薪炭油茶代金何回ノ類ヲ掲載スベシ
 十 市ニ於テ市會費ト市參事會費トヲ区分セントスルトキハ會費ノ款ヲ市會費市參事會費ト分記シ各款ノ下ニ「費用辨償」、「給料」、「雜
 給」、「需用費」等ノ項ヲ設ケベシ

十一 小町村ニ於テハ各款ノ下給料ト雜給、需用費ト修繕費トヲ合セテ各一項ト爲スモ妨ガナシ
 十二 小學校費ヲ學校毎ニ区分シタル場合ニ於テ各校共通ノ費用アルトキハ別ニ一款ヲ設ケテ之ヲ掲載スベシ
 十三 小學校(何學校)費、幼稚園(何幼稚園)費及圖書館(何圖書館)費ノ款ハ之ヲ合セテ教育費トシ其ノ項ハ之ヲ小學校(何學校)費、幼稚園
 (何幼稚園)費及圖書館(何圖書館)費トシ給料、雜給、需用費等ハ之ヲ説明種目ト爲スモ妨ガナシ
 十四 諸稅及負擔(款)ハ諸稅(項)ト負擔(項)トニ分チ「諸稅」ノ説明種目ハ「地租」、「地租附加稅」、「水利組合費」ノ類トシ其ノ附記欄ニハ
 市(町)(村)有土地等ニ對スル分ヲ掲載シ又「負擔」ノ説明種目ハ「何町(村)外何ヶ村組合費負擔」ノ類トス
 十五 雜支出ノ項ハ「滯納處分費」、「練替金」、「過年度支出」ノ類其ノ他他ノ各款ニ屬セザル諸支出ヲ掲載スベシ

十六 特ニ必要アルトキハ本様式ニ掲グル歳入歳出科目ノ外適宜ニ款項目ヲ設クルモ妨ゲナシ
 十七 市町村組合、町村組合ニ於テハ分賦法ニ依ルモノハ歳入科目「市町村税」ノ款ヲ「分賦金」トシ左ノ例ニ依ルベシ

科 目	項 目	算 額 種 目	算 算		備 考
			本年度	前年度	
分 賦 金	一 何市分賦金	一 地租附加	円	円	
	二 何町分賦金	二 何々			
	三 何村分賦金	三 何々			
増			円		
減					
附					
記					

繼續費ノ年期及支出方法様式
 自大正何何年度何府(縣)何市(何郡何町(村))何費繼續年期及支出方法
 至大正何何年度

科 目	項 目	何費中何費	
		大正何何年度支出額	大正何何年度支出額
一 金	一 國庫補助金		
	二 府(縣)補助金		
二 寄附金	一 寄附金		
	二 寄附金		
計			

右何々(議決ヲ要スベキ事業ノ大要ヲ記載ス)
 大正何何年月何日提出

何府(縣)何市(何郡何町(村))繼續費何費收支計算表
 何府(縣)何市(何郡何町(村))長 氏 名

科 目	項 目	大正何何年度		計	種 目	附 記
		年 度	年 度			
一 補助金	一 國庫補助金	円	円	円	一何々	
	二 府(縣)補助金				一何々	
二 寄附金	一 寄附金				一何々	
	二 寄附金					
計		円	円	円		

科 目	三 市(町)(村)登錄入金		四 雜收入		五 市(町)(村)債		合 計
	一 市(町)(村)登錄入金	二 市(町)(村)登錄入金	一 雜收入	二 雜收入	一 市(町)(村)債	二 市(町)(村)債	
大正何年度							
大正何年度							
大正何年度							
大正何年度							
大正何年度							
計							
種目	一 何々		一 預子金		二 何々		
金額	一 何々		一 何々		二 何々		
附記					一 市(町)(村)債		

支出

科 目	一 給與		種目	金額	附記
	大正何年度	大正何年度			
大正何年度					
大正何年度					
大正何年度					
大正何年度					
大正何年度					
計					
種目	一 何々				
金額	二 何々				
附記					

科 目	二 雜給		三 需用費		四 何々		合 計
	一 何々	二 何々	一 何々	二 何々	一 何々	二 何々	
大正何年度							
大正何年度							
大正何年度							
大正何年度							
大正何年度							
計							
種目	一 何々		一 何々		二 何々		
金額	二 何々		二 何々		一 何々		
附記							

記載例

一 繼續費ト爲ス費用ニ付特別會計ヲ設ケズ又ハ特定ノ收入ナキ場合ニハ「繼續費何費支出計算表」トシ收入ノ部ハ之ヲ設ケルヲ要セズ

●所得稅法

大正九年七月三十一日 法律第十一號

大正十一年四月法律第四五號、一二年三月第八號、第二九號、四月第一號、一五年三月第八號、昭和九年六月第五〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依

リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 第一條ノ規定ニ該當セザル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ

所得ニ付テノ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二 本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利

益ノ支拂ヲ受ケルトキ

三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息

ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與

ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付テ賦課ス

第一種

甲 法人ノ普通所得

乙 法人ノ超過所得

丙 法人ノ清算所得

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又

ハ貸付信託ノ利益

乙 第一條ノ規定ニ該當セザル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務

所ヲ有スル法人ヨリ受ケル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又

ハ賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケルトキ

第三種

第一種

甲 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セザル公債、社債及預

金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金

額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末

日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受ケル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一

日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支

拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與

ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ

非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタ

ル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又

ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受ケル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受

ケル金額其ノ株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超

過金額ハ之ヲ法人ヨリ受ケル利益ノ配當ト看做ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相

續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ營業ハ相

續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキ

ハ其ノ所得中勤勞所得(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額

ヲ控除ス

一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二

三〇七

第三編 高等 第一章 高等警察

第三〇七

〔山梨管〕

〔山梨管〕

二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

三 所得總額六千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ六千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡十八歳未滿者ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依リ納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依リ控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具癡疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス

〔山梨警〕

第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限り命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

第十七條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ノ俸給及手當
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
- 三 旅費、學資金及法定扶養料
- 四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利息
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
- 六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十條、第十六條及第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 普通所得

〔山梨警〕

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人 百分ノ五
本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人 百分ノ十

乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ適次ニ各稅率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ四
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額 百分ノ五
其ノ他ノ金額 百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十一條ノ二 同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額

ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得

一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特別ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 公債ノ利息 百分ノ四
其ノ他 百分ノ五

乙 信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス

第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ適次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得トシテ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ算出シ

其金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ税額トス
 千二百圓以下ノ金額 百分ノ〇、八
 千二百圓ヲ超スル金額 百分ノ二
 千五百圓ヲ超スル金額 百分ノ三
 二千圓ヲ超スル金額 百分ノ四
 三千圓ヲ超スル金額 百分ノ五
 五千圓ヲ超スル金額 百分ノ六、五
 七千圓ヲ超スル金額 百分ノ八
 一萬圓ヲ超スル金額 百分ノ九、五
 一萬五千圓ヲ超スル金額 百分ノ十一
 二萬圓ヲ超スル金額 百分ノ十三
 三萬圓ヲ超スル金額 百分ノ十五
 五萬圓ヲ超スル金額 百分ノ十七
 七萬圓ヲ超スル金額 百分ノ十九
 十萬圓ヲ超スル金額 百分ノ二十一
 二十萬圓ヲ超スル金額 百分ノ二十三
 五十萬圓ヲ超スル金額 百分ノ二十五
 百萬圓ヲ超スル金額 百分ノ二十七
 二百萬圓ヲ超スル金額 百分ノ三十
 三百萬圓ヲ超スル金額 百分ノ三十三
 四百萬圓ヲ超スル金額 百分ノ三十六
 前項ノ場合ニ於テ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ税率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ税額ヲ定ム戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同

〔山梨縣〕

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ
 前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス
 第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ
 第十六條又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ
 第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
 所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得
 所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス
 第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ
 前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔山梨縣〕

第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得
 調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス
 第二十九條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス
 調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補選委員ヲ選舉スヘシ
 第三十條 調査委員及補選委員ノ選舉區域ハ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル
 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス
 第三十一條 選舉區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補選委員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補選委員ニ選舉セラレルトコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス
 一 無能力者
 二 破産若ハ家責分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者
 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者
 四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
 五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
 六 第七十四條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十

條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者
 其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス
 前二項ノ場合ニ於テ被相続人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相続人ノ納稅又ハ申告ト看做ス
 選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス
 第三十三條 第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス
 第三十三條 稅務署長ハ調査委員及補選委員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ
 市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ
 第三十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
 投票ハ調査委員及補選委員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル
 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ら投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ
 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス
 第三十五條 市區町村長又ハ戶長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ
 第三十六條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ
 第三十七條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ
 立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
調査委員ニ當選シタル者同時ニ補員ニ當選スルモ補員タルコトヲ得ス

第三十九條 調査委員及補員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ
市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條 調査委員又ハ補員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十一條 調査委員及補員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス

選舉區域ノ變更ニ因リ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員及補員ノ任期ハ選舉區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選舉區域ノ變更ノ月ハ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス

第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 調査委員及補員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條 調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ補員ナキトキハ調査委員ノ補員ヲ行フ

〔山梨省〕

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査終了セザルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第五十二條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査終了セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ還滞ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調査書ヲ政府ニ提出スヘシ
一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額
二 利子支拂期限及利率
三 償還ノ方法及期限
四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調査書ヲ提出スヘシ
信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第一項又ハ前項ノ支拂調査書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調査書又ハ

キトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ關員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補員ナキトキハ調査委員ノ補員ヲ行フ

第四十四條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條 調査委員又ハ補員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セザルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ住居セザルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第四十六條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

第五十條 調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十一條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十九條 第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セザル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サザルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得調査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十二條ノ規定ハ所得調査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク

所得調査委員會ハ左ノ實查委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者

府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人
所得審査委員會、審査委員及其ノ補員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモ
ノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス
第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十四條第一項第五號及第
六號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ
請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在
ラス

所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場
合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス
第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ二
分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス
第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服
アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算
所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス
第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月
十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス
但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ
居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得
第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限
第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限
第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

〔山梨管〕

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セザルトキ
又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支
拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條
ノ規定ニ依リ徵收セザル稅金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルト
キハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス
第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定
スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付テハ以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決
定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所外、住所ナキトキハ居所
地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ
第七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナ
キトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所外ニ在ル者ハ申告シテ居
所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナ
キトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス
第七十三條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅
其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政
府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サルトキ亦同シ

第七十三條ノ二 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若
ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的
アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ
其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得
第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通
脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又

〔山梨管〕

ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス
前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ通脫シタル者ノ所得金額ハ
第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ
徵收ス

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依
リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲
シタル支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書
又ハ計算書ニ付第五十六條第三項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調
査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ
五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九
條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第
六十六條ノ例ヲ用井ス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ
ス

附則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條
ノ規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス
賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得ト
シテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限リ、銀行
定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ
本法施行前ニアルモノニ限リ大正九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ
第三編 高等 第一章 高等警察

他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル
各事業年度分ニ屬スル第十四條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法
施行前ニ於ケル第十四條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス
第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍
從前ノ規定ニ依ル

第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十
一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限リ本稅ノ三割五分
ヲ徵收ス
大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキ
ハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年
度分ノ超過所得ニ付テハ本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本稅ノ三割五分ヲ徵
收ス

第八十二條 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄
ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日
トス
從前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補員及所得審査委員ノ任期ハ大正十
年五月一日ヲ以テ終了ス

第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限リ第一期ノ納期
ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス
第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セス

附則 (大正十二年法律第八號)
本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所
得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大
正十二年分第三種所得トシテ計算ス

附則 (大正十二年法律第二十九號)

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ受クル貸付信託ノ所得ニシテ從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ信託利益ノ支拂期カ本法施行前ニ在ルモノニ限リ大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

附則 (大正十五年法律第八號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十五條、第五十一條及第六十七條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
第十四條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十四年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ大正十五年分第三種所得トシテ計算セス
第十六條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ大正十五年ニ限リ四月一日トス

本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十五年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル
從前ノ規定ニ依ル所得調査委員及補關員ノ任期ハ大正十五年九月三十日ヲ以テ終了ス

第三十一條、第四十一條及第四十五條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ大正十五年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス
附則 (昭和九年法律第五十號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和九年勅令第二百二十二號ヲ以テ昭和九年七月一日ヨリ施行)

〔山梨警〕

本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●所得稅法施行規則

大正九年七月三十一日
勅令第二百二十六號

改正 大正一〇年四月勅令第六九號、一一年三月第一七一號、一二月第五一三號、一二年三月第七八號、一三年二月第二三號、一五年三月第二九號、昭和五年一月第一七號、九年三月第一號、四月第一六號、一二年三月第五八號

朕所得稅法施行規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス
第一條ノ二 法人ノ超過所得ノ算出ニ付テハ其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス
前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ所得稅法第二十一條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付テハ準用ス
第二條 所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資產價額ニ對スル所得稅法施行地ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス
前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子又ハ利益、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ
第六條ノ三 所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ノ際ニ之ヲ控除スヘシ
第六條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者又ハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

〔山梨警〕

第三條 所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資產價額ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 所得稅法第二十一條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル
前項ノ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ所得稅法第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス
前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル
前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第六條ノ二 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務所ニ申請スヘシ

第七條 所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲スヘシ
所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス

第八條ノ二 所得稅法第十五條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス
第九條 所得稅法第十六條ノ不具癡疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介

課税要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二 所得税法第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計力控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セザルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ稅務署長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム

第十條 所得税法第十六條ノ規定ニ依リ控除ノ申請書ニハ年齢十八歳未満者ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具癡疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得税法第十六條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 所得税法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ所得税法第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス

第十三條 山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第十四條 所得税法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
一 保險者ノ住所及名稱

〔山業〕

二 保險ノ種類

三 保險金額
四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄
五 前年中ニ拂込ミタル保險料金額
其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得税法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 左ニ掲グル公共團體ニハ所得税法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス
一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ

二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

第十三條 左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得税法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス
一 金、銀、鉛、錫、鐵又ハアルミニウムノ地金
二 鐵ノ條、竿、テーパー、アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）

〔山業〕

スヘシ

第十七條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ殘餘財産ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十八條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日內ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳細ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ
所得税法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第二十條 所得税法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂調査ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日限

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

第十六條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ各事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算着手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 前項ノ場合ニ於テ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得ト有スルトキハ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十八條 所得税法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第二十四條又ハ第二十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十一條 前條ノ支拂圖書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受ケル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受ケル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十二條 第二十條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂圖書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ異動圖書ヲ提出スヘシ

第二十三條 二 信託ノ受託者ハ左ノ期限ニ從ヒ各信託ノ計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ貸付信託ニシテ受益者個人ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 信託會社ニ在リテハ每事業年度終了後二十日限

〔山梨警〕

二 信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ毎年三月十五日限

第二十二條ノ三 前條ノ計算書ニハ各信託ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 委託者及受益者ノ住所及氏名

二 信託行爲ノ時及信託會社ニ在リテハ各事業年度末、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月末日ニ於ケル信託財產ノ種類及現在額並信託會社ニ在リテハ各事業年度中、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間中ニ於ケル信託財產ノ異動及信託ニ關スル收入支出

三 前各號ニ掲ケルモノノ外信託行爲ノ内容ニ關スル事項

第二十三條 第二十條、第二十二條又ハ第二十二條ノ二ニ規定スル圖書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ左ノ金額ヲ交付ス

一 第二十條又ハ第二十二條ニ規定スル圖書ニ付テハ記載事項一件一人毎ニ五厘

二 第二十二條ノ二ニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎ニ三錢

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ圖書又ハ計算書提出後三十日以内ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十四條 所得稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調查委員會ヲ置クヘキ市ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第二十五條 調査委員ノ定數ハ七人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第二十六條 所得稅法第三十三條第二項ノ規定ニ依リ公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ

第二十七條 稅務署長ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿正副二通ヲ調製シ副本ヲ市區町村長又ハ戶長ニ送付スヘシ

市區町村長又ハ戶長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ五日間市區

〔山梨警〕

役所、町村役場又ハ戶長役場ニ於テ選舉人名簿ノ副本ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ

關係者選舉人名簿ノ副本ニ付異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ稅務署長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅務署長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ稅務署長ハ正本ヲ修正シ名簿確定期日前市區町村長又ハ戶長ヲシテ其ノ副本ヲ修正セシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前日ヲ以テ確定ス

島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉人名簿ニ付テハ大藏大臣ハ第一項乃至第四項ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 市區町村長又ハ戶長ハ投票區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第二十九條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ市區町村長又ハ戶長之ヲ決定スヘシ

第三十條 市區町村長又ハ戶長ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ調査委員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 投票ノ調査終リタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

一 投票及開票ノ日時及場所

二 投票及開票ノ立會人ノ住所及氏名

三 投票人及投票ノ總數並有效投票及無效投票ノ數

四 投票ヲ無効ト決定シタル事由

五 被選舉人ノ氏名及其ノ得票數

第三十二條 選舉會ハ豫メ稅務署長ノ公示シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開ク

第三十三條 稅務署長ハ選舉區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ選舉會ニ立會ハシムヘシ

第三十四條 所得調查委員會ノ開會日數ハ各所得調查委員會ノ區域内ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者及所得稅ヲ納メシテ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ納メタル者ノ合計數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未満ナルトキ 十日以内

第三十五條 所得調查委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年數多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十六條 所得調查委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第三十七條 稅務署長所得稅法第二十六條、第五十一條、第五十二條若ハ第七十四條第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十八條 所得稅法第五十九條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條 所得稅法第六十條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事

由ツ具シ證書類ヲ添ヘ所得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第四十條 審査委員及其ノ補員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第四十一條 審査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補員ヲ選舉スヘシ

補員ハ稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員之ヲ互選ス

第四十二條 稅務監督局長ハ審査委員及補員ノ選舉期日、投票時間及投票場所ヲ定メ之ヲ調査委員ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル通知ニハ之ヲ受ケヘキ調査委員ノ屬スル府縣又ハ北海道ニ於ケル調査委員ノ氏名表ヲ添附スヘシ

第四十三條 審査委員及補員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ審査委員及補員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ但シ相當ノ事由ニ因リ自ラ投票所ニ至ルト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間後到着シタル投票ハ無効トス

第四十四條 稅務監督局長ハ調査委員中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第四十五條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 審査委員ニ當選シタル者同時ニ補員ニ當選スルモ補員タルコトヲ得ス

第四十七條 審査委員及補員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選ノ結果ヲ通知スルコトヲ得

第五十八條 所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ

第五十九條 稅務監督局長所得稅法第六十一條ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第六十條 納稅義務者所得稅法第六十四條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サルトキハ同時ニ所得稅法第十六條ノ規定ニ依リ控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付テ之ヲ準用ス

第六十一條 所得稅法第六十四條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ヲシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第六十二條 稅務署長所得稅法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第六十三條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ所得稅法第十五條第二項、第十六條第二項、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ノ適用ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セズ

第六十四條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第三編 高等 第一章 高等警察

選人ニ當選ノ通知ヲ爲シ且其ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十八條 審査委員又ハ補員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十九條 審査委員及補員ハ稅務監督局所轄内ニ於ケル調査委員全部ノ改選アリタルトキ之ヲ改選ス

第五十條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ補員ヲ以テ之ヲ補充ス但シ北海道ニ在リテハ補員中投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ關員ヲ補充スヘキ補員ナキトキハ審査委員ノ補員選舉ヲ行フ

第五十一條 審査委員又ハ補員ニシテ調査委員タルノ資格ナキニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第五十二條 所得審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第五十三條 所得審査委員會ハ開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第五十四條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サルハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十五條 所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中年齡多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第五十六條 審査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十七條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ所得審査委員會ニ出席シ意見地ヲ指定ス

第六十七條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルトキハ其ノ旨居所地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第六十八條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第六十九條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十條 納稅義務者所得稅法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サルトキハ其ノ旨納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十一條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ大正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セズ

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ居所ヲ有スル者朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルヲ移轉シタルトキ

〔山梨省〕

〔山梨省〕

第七十二條

大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラルル所得稅ノ免除期間ニ依ル

第十四條

大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準ル

第七十三條

大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造業ノ營業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官

第十六條

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ

大正九年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ所得稅法第十六條ノ規定ノ施行ニ關スル規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セ

第三種ノ所得ニ付テハ昭和十二年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス

●商工會議所法

昭和二年四月五日
法律第四十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商工會議所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商工會議所法

第一條 商工會議所ハ商工業ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 商工會議所ハ法人トス

第三條 商工會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ商工業ノ狀況ニ依リ必要

アル場合ニ於テハ町ノ區域ニ依ルコトヲ得

特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町市町村又ハ町市町村ヲ合シテ一地區ト

爲スコトヲ得

第四條 商工會議所ヲ設立セントスルトキハ第十二條第一號ノ議員ノ被選

舉權ヲ有スベキ者三十人以上發起人ト爲リ其ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ

者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ

定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第五條 商工會議所ハ前條ノ設立ノ認可アリタル日ニ於テ成立ス

商工會議所成立ノ後役員ノ選任アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人ノ行

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 名稱、地區及事務所ノ所在地

〔山梨縣〕

二 議員ノ定數並ニ其ノ選舉及選定ニ關スル規定

三 役員ノ定數、權限及選任ニ關スル規定

四 會議ニ關スル規定

五 事業及其ノ執行ニ關スル規定

六 庶務及會計ニ關スル規定

第七條 商工會議所ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 商工業ニ關スル通報

二 商工業ニ關スル仲介又ハ斡旋

三 商工業ニ關スル調停又ハ仲裁

四 商工業ニ關スル説明又ハ鑑定

五 商工業ニ關スル統計ノ調査及編纂

六 商工業ニ關スル營造物ノ設置及管理

七 其ノ他商工業ノ改善發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第八條 商工會議所ハ商工業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ

得

商工會議所ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スベシ

商工會議所ニ商業簿及工業簿ヲ置キ場合ニ於テハ部ハ定款ノ定ムル所

ニ依リ各前二項ノ建議又ハ答申ヲ爲スコトヲ得

第九條 行政官廳ハ商工會議所ニ對シ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ命ズ

ルコトヲ得

第十條 商工會議所ハ商工業者ニ對シ商工業ニ關スル統計其ノ他ノ調査

ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 商工會議所ニ議員會議ヲ置ク

第十二條

議員總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一 第十四條乃至第十八條ノ規定ニ依リ被選舉權アル者ニ就キ選舉人

ノ選舉シタル議員

一 地區内ノ重要商工業ヲ代表セシムル爲第十九條ノ規定ニ依リ選定

シタル議員

第十三條 議員ノ定數ハ五十人以上トシ前條第二號ノ議員ノ員數ハ議員

定數ノ五分ノ一トス但シ地方ノ狀況ニ依リ其ノ割合ヲ五分ノ一未滿ト

スルコトヲ妨グズ

同一商工會議所ニ於テ前條第一號ノ議員ト同條第二號ノ議員ト兼メ

ルコトヲ得ズ

會社ノ資本又ハ財産ノ目的トスル出資ガ命令ノ定ムル金額以上ナル
 場合ニ於テハ第一項第三號ノ納税ニ關スル條件ヲ具ヘザルトキト雖
 第一項ノ選舉權ヲ有ス
 家督相續チ爲シタル者ニ付テハ第一項ノ選舉權ニ關スル條件ニシテ
 被相續人ノ具備シタルモノハ之ヲ其ノ者ノ具備シタルモノト看做
 ス
 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ前項
 ノ規定ヲ準用ス
 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ選舉權ヲ有セズ
 一 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者
 二 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 三 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行
 ヲ受ケルコトナキニ至ル迄ノ者
 第十六條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ其ノ被選舉權ヲ
 有ス
 第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ被選舉權ヲ有セズ
 一 禁治産者及準禁治産者
 二 女子及年齢三十歳未滿ノ者
 第十八條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
 投票ハ一人一票ニ限ル
 投票ハ選舉人自ラ之ヲ行フ但シ會社及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依
 リ代人ヲ以テ之ヲ行フ
 投票ハ單記投票又ハ五人以内ノ連名投票ノ方法ニ依ル

選舉ハ選舉人ヲ二級ニ分チテ之ヲ行フコトヲ得
 前五項ニ規定スルモノノ外選舉ノ方法、手續、取締其ノ他選舉ニ關シ
 必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 第十二條第二號ノ議員ハ地區内ノ重要商工業一業種ニ付各一
 人トス
 前項ノ重要商工業ノ種目ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
 第一項ノ議員ハ第十四條第一號ノ條件ヲ具フル者タルコトヲ要
 ス
 第十五條又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スル者ハ第一項ノ議員タルコト
 ヲ得ズ
 前四項ニ規定スルモノノ外第一項ノ議員ノ選定ニ關シテハ定款ノ定ム
 ル所ニ依ル
 第二十條 議員タル會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代表者ヲ定ムベシ
 前項ノ代表者ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ登記シタル支
 配人ニシテ帝國臣民タルコトヲ要ス
 一人ニシテ同一商工會議所ニ於テ二以上ノ會社ノ代表者ト爲ルコトヲ
 得ズ
 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ代表者タルコトヲ得ズ
 一 第十五條又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スル者
 二 同一商工會議所ノ議員タル者
 三 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權停止中ノ者
 第二十二條 議員ハ名譽職トス
 第二十三條 議員ノ任期ハ四年トス

前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算
 ス
 補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
 第二十四條 第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ被選舉權ヲ有セザルニ至
 リタル者ハ其ノ職ヲ失フ但シ納税ニ關スル條件ヲ失ヒタル場合ハ此ノ
 限ニ在ラズ
 第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル
 者亦前項ニ同シ
 第二十五條 左ノ事項ハ議員總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス
 一 定款ノ變更
 二 經費ノ豫算及賦課徵收方法
 三 事業報告及收支決算ノ承認
 四 借入金
 五 顧問ノ選任又ハ解任
 六 議員又ハ役員ノ解任
 七 過怠金ノ賦課
 八 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ノ停止
 九 商工會議所ノ解散
 十 日本商工會議所設立ノ同意
 十一 其ノ他重要ナル事項
 前項第一號、第二號、第四號及第九號ニ掲グル事項ノ議決ハ主務大臣
 ノ認可ヲ受クベシ
 第二十六條 議員總會ハ會頭之ヲ招集ス

議員總會ノ議長ハ會頭、會頭事故アルトキハ副會頭ヲ以テ之ニ充ツ會
 頭及副會頭共ニ事故アルトキハ出席議員ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム
 議員總會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得
 ズ
 議員總會ノ議決ハ出席議員ノ過半数ニ依リ可否同數ナルトキハ議長之
 ヲ決ス
 前條第一項第一號、第四號及第六號乃至第九號ニ掲グル事項ノ議決ハ
 議員三分ノ二以上出席シ其ノ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ
 爲スベシ
 第二十七條 商工會議所ニ左ノ役員ヲ置ク
 會頭 一人
 副會頭 一人又ハ二人
 會頭ハ商工會議所ヲ代表シ所務ヲ總理ス
 副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
 會頭及副會頭ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置
 クコトヲ得
 第二十八條 役員ハ議員總會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選任ス
 第二十九條 役員ノ任期ハ四年トス
 前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス
 第三十條 役員議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ役員ノ職ヲ失フ
 第三十一條 議員タル會社役員ニ選任セラレタル後第二十條第一項ノ規
 定ニ依リ其ノ代表者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ會社ハ役員ノ職ヲ失
 フ

第三十二條 役員ノ職務終了シタル場合ニ於テ所務ノ遂行ニ支障ヲ生ズル虞アルトキハ退職シタル役員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ後任者ノ就職スル迄引續キ仍其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第三十三條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要ナル事項ニ付諮問ヲ爲ス爲議員定數ノ五分ノ一ヲ超エザル員數ノ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ商工業ニ關スル學識經驗アル者又ハ十年以上議員トシテ功勞顯著ナル者ヨリ之ヲ選任ス

顧問ハ名譽職トス

第三十四條 商工會議所ニ理事一人ヲ置ク

理事ハ會議ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
理事ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第三十五條 商工會議所ハ必要ニ應ジ商業部、工業部又ハ其ノ他ノ部ヲ置クコトヲ得

部ノ名稱、組織、權限其ノ他部ニ關シ必要ナル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 商工會議所ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第四十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ依リ選舉權ヲ停止セラレタル者ニ對シテハ停止中ト雖モ經費ヲ賦課スルコトヲ得

商工會議所ノ經費賦課ノ額ニ關スル制限及經費賦課ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第三十八條 經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ會頭ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商工會議所ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ時放ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依リ

經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條 商工會議所ハ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタル議員又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第四十一條 商工會議所ハ經費ヲ滯納シタル者ニ對シ其ノ滯納中、前條ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ニ對シ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第四十二條 商工會議所ハ收支決算ヲ主務大臣ニ報告スベシ

商工會議所ハ少クとも毎年一回其ノ事業成績ヲ主務大臣ニ報告スベシ

第四十三條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第四十四條 商工會議所解散シタルトキハ議員總會ニ於テ清算人ヲ選任スベシ清算人缺ケタルトキ亦同シ

清算人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス

第四十六條 清算人ハ商工會議所ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十七條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ議員總會ノ議決ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

議員總會前項ノ議決ヲ爲サズ又ハ爲スコト能ハザルトキハ清算人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムベシ

第四十八條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十六條及第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 主務大臣必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徵收方法又ハ清算及財産處分ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉法令又ハ定款ニ違反スルトキハ主務大臣ハ選舉又ハ當選ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 商工會議所ノ議決又ハ議員、役員若ハ清算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 議員、役員又ハ清算人ノ解任
- 二 商工會議所ノ議決ノ取消
- 三 商工會議所ノ事業ノ停止

四 商工會議所ノ解散

第五十二條 主務大臣ハ不正ノ行爲アリタルニ因リ第五十條ノ規定ニ基キ當選ヲ取消サレタル者又ハ前條第一號ノ規定ニ依リ解任セラレタル議員若ハ役員ニ對シ取消又ハ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第五十三條 商工會議所ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ日本商工會議所ヲ設立スルコトヲ得

日本商工會議所ハ法人トス

日本商工會議所ヲ設立セントスルトキハ六人以上ノ商工會議所發起人ト爲リ商工會議所總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十四條 日本商工會議所成立シタルトキハ商工會議所ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス

日本商工會議所ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル商工會議所ニ準ズル法人其ノ他ノ團體ヲ加入セシムルコトヲ得

第五十五條 日本商工會議所ニ總會ヲ置ク總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十六條 日本商工會議所ニ常議員會ヲ置ク

常議員會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

常議員會ハ定款ニ依リ委任セラレタル總會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

ス但シ定款ノ變更及日本商工會議所ノ解散ノ議決ハ之ヲ爲スコトヲ得
 第五十七條 日本商工會議所ノ役員ハ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ
 役員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ會頭又ハ副會頭ニ限
 リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スル
 コトヲ得
 日本商工會議所所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員中ヨリ選任セラ
 レタル役員其ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員ノ職ヲ失ヒタルトキハ
 日本商工會議所ノ役員ノ職ヲ失フ
 第五十八條 日本商工會議所ノ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所
 其ノ他ノ團體ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得
 第五十九條 第五條第一項、第六條乃至第十條、第二十條乃至第二十二
 條、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條第一項、第三十二條乃至
 第三十五條、第三十六條第三項、第三十八條第三項、第三十九條、第
 四十條、第四十二條乃至第四十九條及第五十一條ノ規定ハ日本商工會
 議所ニ之ヲ準用ス
 第六十條 主務大臣ハ本法ニ規定シタル其ノ職權ノ一部ヲ行政官廳ニ委
 任スルコトヲ得
 第六十一條 第三條及第三十八條中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地
 ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

三三〇
 商業會議所法ハ之ヲ廢止ス
 商業會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル商業會議所ハ之
 ナ本法ニ依リ設立シタル商工會議所ト看做ス
 前項ノ規定ニ依リ商工會議所ニ付テハ議員ノ選舉又ハ選定ニ關スル規定
 ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ施行前ニ於ケル議員ノ選舉ニ關スル事
 項ハ仍舊法ノ規定ニ依ル
 第三項ノ規定ニ依リ商工會議所ニ付テハ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ
 以テ之ヲ定ム
 日本銀行及橫濱正金銀行ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ會社ト看做ス
 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラ
 レタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

● 商工會議所法施行令
 昭和二年十二月二十八日
 勅令第三百七十五號

商工會議所法施行令
 第一條 商工會議所ハ商工會議所法第十四條第一項ノ規定ニ依リ議員ノ
 選舉權ヲ有スル者ニ對シ一年間ノ營業收益稅、取引所營業稅又ハ釐金
 稅ノ地區内ニ於ケル納稅額ヲ標準トシ左ノ制限内ニ於テ定ムル賦課率
 ニ依リ其ノ經費ヲ賦課スルコトヲ得
 一 營業收益稅 百分ノ二十五
 二 取引所營業稅 百分ノ十
 三 釐金稅 百分ノ二十

前項ノ納稅額決定以前ニ於テハ其ノ最近ニ決定セラレタル一年間ノ納
 稅額ヲ以テ其ノ納稅額ト看做ス
 第二條 會社ニ對スル經費ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ
 規定ニ依リ資本利子稅額ノ控除ヲ爲サザルモノヲ以テ營業收益稅額ト
 看做ス
 第三條 商工會議所ハ商工會議所法第十四條第三項ノ規定ニ依リ議員ノ
 選舉權ヲ有スル會社ニ對シ拂込資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ金額
 ヲ標準トシ其ノ百分ノ一以內ニ於テ定ムル賦課率ニ依リ其ノ經費ヲ賦
 課スルコトヲ得但シ商工會議所ノ地區外ニモ營業場ヲ有スル會社ニ付
 テハ別ニ命令ノ定ムル方法ニ依リ地區内ニ於ケル經費賦課ノ標準ト爲
 スベキ金額ヲ算出シ經費ヲ賦課ス
 第四條 商工會議所法第十四條第一項ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有ス
 ル會社ニシテ同條第三項ノ規定ニ基ク命令ノ定ムル金額以上ノ資本額
 又ハ財産ヲ目的トスル出資額ヲ有スルモノニ對シテハ第一條ノ規定ニ
 拘ラズ前條ノ例ニ依リ經費ヲ賦課スルコトヲ妨グズ
 第五條 商工會議所ノ經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者
 其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ商
 工會議所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ商工會議所ハ遲滞ナク議員總會ノ議
 決ヲ經テ決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スベシ
 異議ノ申立ニ關シテハ訴訟法第五條、第八條第三項、第九條、第十條
 及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス
 第六條 前條ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ

訴訟シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ
 出訴スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ裁決ニ付テハ商工會議所ヨリモ訴訟又ハ
 訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第七條 商工會議所法第三十八條第一項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ
 不服アルトキハ地方長官ニ訴訟シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判
 所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ裁決ニ付テハ市町村ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第八條 前二條ニ於テ地方長官トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳長官トス
 第九條 第一條乃至前條ノ規定ハ商工會議所法第四十八條ノ規定ニ依リ
 債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス但シ
 其ノ賦課率ハ第一條、第三條又ハ第四條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得
 第十條 日本商工會議所ハ商工會議所ニ對シ最近其ノ經費賦課ノ標準ト
 爲シタル一年間ノ納稅額ノ總額ヲ標準トシ其ノ百分ノ一以內ニ於テ定
 ムル率並ニ最近其ノ經費賦課ノ標準ト爲シタル拂込資本及財産ヲ目的
 トスル出資ノ金額ノ總額ヲ標準トシ其ノ二十百分ノ一以內ニ於テ定ム
 ル率ニ依リ其ノ經費ヲ分賦スルコトヲ得但シ定款ノ定ムル所ニ依リ經
 費ノ二分ノ一ヲ限り商工會議所ノ前年度ノ豫算額ヲ標準トシ之ヲ分賦
 スルコトヲ妨グズ
 商工會議所以外ノ所屬團體ニ對スル日本商工會議所ノ經費分賦ノ方法
 ハ定款ノ定ムル所ニ依ル
 第十一條 前條ノ規定ハ商工會議所法第五十九條ノ規定ニ依リ準用シタ
 ル同法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課

徴収スル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ分賦スル率ハ前條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第十二條 日本商工會議所ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徴収ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ日本商工會議所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ異議ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十三條 前條ノ異議ノ申立ニ關スル決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本會ハ商工會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和三年一月一日ヨリ施行)

大正五年勅令第七十號ハ之ヲ廢止ス

商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ノ經費ハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間商業會議所法ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

前項ノ賦課ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

前二項ノ規定ハ商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ノ開法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徴収スル場合ニ之ヲ準用ス

●商工會議所法施行規則

昭和二年十二月二十八日 商工省令第十三號

商工會議所法施行規則左ノ通定ス

第一條 商工會議所法施行規則

第一條 商工會議所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

一 設立ノ理由

二 地區

三 事業計畫ノ概要

四 一事業年度ノ經費ノ收支概算

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ爲スベシ

各市町村又ハ町村ヲ合シテ一地區ト爲サントスル場合ニ於テハ各市町村ニ付少クとも一人ノ發起人アルコト及商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ選擧ナク創立總會ヲ招集スベシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クとも二週間前ニ會議ノ目的ヲ示ス事項、日時及場所ヲ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者ニ通知スベシ

第三條 創立總會ニ於ケル議決ハ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ各市町村又ハ町村ヲ合シテ一地區ト爲サントスル場合ニ於テハ各市町村ニ付其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 創立總會ニ於テハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但シ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者ニ非ザレバ代理

人タルコトヲ得ズ

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第五條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ原本及左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ選擧ナク商工大臣ニ差出スベシ

一 設立ノ理由

二 地區

三 事業計畫ノ概要

四 商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スベキ者ノ數

五 商工會議所法第十九條第二項ノ規定ニ依リ地區内ノ重要商工業ノ種目ヲ定メタル理由

六 一事業年度ノ經費ノ收支概算

七 町ヲ以テ地區ト爲ストキハ其ノ町ニ於ケル商工業ノ狀況

八 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲ストキハ商工會議所法第三條第二項ノ特別ノ事情

第六條 商工會議所設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ商工大臣ハ其ノ名稱、地區及事務所ノ所在地ヲ告示ス

第七條 商工會議所設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ六月以内ニ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉ヲ行フベシ

前項ノ期間内ニ其ノ選舉ヲ行ハザルトキハ設立ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第八條 發起人ハ議員ノ選舉及選定ヲ爲シタル後選擧ナク議員總會ヲ開

キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且創立費及其ノ償却方法ノ承認ヲ求ムベシ

前項ノ議員總會ニ於テハ役員ヲ選任シ並ニ經費ノ豫算及賦課徴収方法ヲ議決スベシ

役員ノ選任アリタルトキハ發起人ハ一切ノ事務ヲ選擧ナク役員ニ引繼グベシ

第一項ノ承認ヲ經タル創立費及其ノ償却方法ハ之ヲ商工大臣ニ届出ゾベシ

第九條 商工會議所法第十四條第一項第三號ノ納稅額ヲ左ノ通定ス

商工會議所	營業收益稅	取引所營業稅
又ハ納稅額		
東京市ニ事務所ヲ有スルモノ	百圓	二千圓
大阪市ニ事務所ヲ有スルモノ	五十圓	二千圓
京都市、横濱市、神戸市、名古屋市ニ事務所ヲ有スルモノ	三十圓	五百圓
其ノ他ノモノ	十五圓	百圓

第十條 商工會議所法第十四條第一項第三號但書ニ掲グル者ニ付テハ商工會議所ノ地區ノ屬スル市町村ニ於テ營業收益稅又ハ納稅額附加稅賦課ノ歩合ノ定アルトキハ其ノ歩合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ地區内ニ於ケル納稅額ト看做ス

前項歩合ノ定ナキトキハ商工會議所ハ其ノ地區内ニ於ケル納稅ノ額ト看做スベキ金額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケベシ

第十一條 商工會議所法第十四條第三項ノ會社ノ資本又ハ財産ノ目的トスル出資ノ金額ヲ左ノ通定ス

商 工 會 議 所

金 額

東 京 市、大 阪 市、神 戶 市、名 古 屋 市、三 十 萬 圓
其 他 十 萬 圓

第十二條 議員ノ當選又ハ選定アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ氏名ヲ、會社ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名ヲ選定ナク商工大臣ニ届出ツベシ代表者變更ノ場合亦同シ

第十三條 役員又ハ顧問ノ選任アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ履歷書ヲ、會社ニ在リテハ其ノ代表者ノ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名又ハ名稱ヲ選定ナク商工大臣ニ届出ツベシ

第十四條 議員、役員又ハ顧問ノ退任アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ氏名又ハ名稱及退任ノ事由ヲ選定ナク商工大臣ニ届出ツベシ但シ商工大臣ニ於テ解任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 理事ノ選任アリタルトキハ履歷書ヲ添附シ、其ノ退任アリタルトキハ事由ヲ具シ商工會議所ハ其ノ氏名ヲ選定ナク商工大臣ニ届出ツベシ

第十六條 商工會議所ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條 商工會議所法施行令第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ經費賦課ノ標準ト爲スベキ會社ノ拂込資本又ハ財産目録トスル出資ノ金額ハ前年中其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算出ス

第十八條 第十條ノ規定ハ商工會議所法施行令第三條但書ノ經費賦課ノ標準ト爲スベキ金額ノ算出方法ニ付テ之ヲ準用ス

第十九條 商工會議所ハ經費負擔義務者ニ對シ其ノ負擔義務ノ發生シタル月ヨリ其ノ消滅シタル月迄ノ月割額ヲ超エテ經費ヲ賦課スルコトヲ得ズ但シ既ニ徵收シタル經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ還付セザルコトヲ得

第二十條 商工會議所ハ毎年一月末日迄ニ次年度ノ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ認可ヲ商工大臣ニ申請スベシ但シ商工會議所ヲ新ニ設立シタル場合ニ於テハ議決アリタル日ヨリ七日以内ニ認可ヲ申請スベシ

第二十一條 借入金ヲ爲サントスルトキハ商工會議所ハ金額、利率、期間、擔保ノ有無及種別、借入先、借入ヲ必要トスル事由並ニ償還ノ方法ヲ具シ商工大臣ニ認可ヲ申請スベシ

第二十二條 商工會議所ハ毎年七月末日迄ニ前年度ノ收支決算及事業成績ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第二十三條 商工會議所解散シタルトキハ商工大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス

第二十四條 商工會議所ニ於テ清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ

添附シ認可申請書ヲ選定ナク地方長官ニ差出スベシ

第二十五條 清算人ノ選任ヲ認可シ又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ地方長官ハ其ノ氏名ヲ告示スベシ

第二十六條 清算人ハ就職ノ日ヨリ六月以内ニ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ議員總會ノ議決ヲ經ベシ

前項ノ清算及財産處分ノ方法ニシテ議員總會ノ議決ヲ經タルトキハ財産目録及貸借對照表ヲ添附シ七日以内ニ認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スベシ

議員總會第一項ノ期間内ニ議決ヲ爲サズ又ハ爲スコト能ハザルトキハ清算人ハ其ノ事由ヲ具シ財産目録及貸借對照表ヲ添附シ期間經過後七日以内ニ認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スベシ

第二十七條 清算終了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ選定ナク商工大臣ニ届出ツベシ

第二十八條 商工會議所法第二十五條第一項第一號、第四號及第九號ノ議決ニ關スル認可申請書ニハ會議ノ議事録ノ添付ヲ添付スベシ

第二十九條 商工會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リ商工大臣ニ差出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

第三十條 日本商工會議所ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第三十一條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ原本及左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ日本商工會議所ノ設立認可申請書ヲ選定ナク商工大臣ニ差出スベシ

一 設立ノ理由

二 事業計畫ノ概要

三 創立費及其ノ償却方法

四 初年度ノ經費ノ豫算及分賦收入方法

五 役員ノ氏名及其ノ履歷、會社役員タルトキハ其ノ名稱並ニ代表者ノ氏名及其ノ履歷

第三十二條 商工會議所法第五十四條第二項ノ規定ニ依リ法人其他ノ團體ヲ加入セシメントスルトキハ日本商工會議所ハ其ノ團體ノ加入申込書、定款、團體ヲ組織スル者ノ數並ニ最近ノ事業年度ノ事業成績及經費ノ豫算ヲ記載シタル書面ヲ添附シ認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スベシ

第三十三條 商工會議所法第五十五條第二項ノ規定ニ依リ選定スベキ者ノ員數ハ商工會議所其他ノ團體ニ付各一名トス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ經費負擔額ニ應ジ其ノ員數ヲ三名迄増加スルコトヲ妨ゲズ

第三十四條 商工會議所ニ關スル規定ハ第一條第三項、第五條、第七條、第八條第一項第二項第四項、第九條乃至第十二條、第十七條、第十八條及第二十九條ノ規定ヲ除ク外日本商工會議所ニ之ヲ準用ス但シ第二十四條及第二十五條中地方長官トアルハ之ヲ商工大臣トス

附 則

本則ハ商工會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和三年一月一日ヨリ施行)

商業會議所法施行規則ハ之ヲ廢止ス
商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依リ商工會議所ニ付テハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間職員ノ選舉及經費賦課ニ關スル事項ハ仍從前ノ規定ニ依リ

外左ノ各條ノ規定ニ依ル

一 議員總會ハ商工會議所法第十二條及第十三條ノ規定ニ拘ラズ從前ノ規定ニ依ル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

二 商工會議所法第十二條第一號ノ議員トアルハ從前ノ規定ニ依ル議員トス

三 商工會議所法施行前同法第二十九條第一項ノ規定ニ異ル任期ヲ定メタル定款ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

商業會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル認可其ノ他ノ處分及行爲ハ商工會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ商工會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

●商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉ニ關スル規則

昭和二年十二月二十八日
商工省令第十四號

修正 昭和四年一月十日商工省令第一〇號
商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉ニ關スル規則左ノ通定ス

商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉ニ關スル規則

第一條 商工會議所法第十八條第五項ノ規定ニ依リ級別選舉ヲ行フ場合ニ於テハ選舉人中選舉人ノ總數ヲ以テ選舉人ノ納ムル經費總額ヲ除シ

ヘザル場合ニ於テハ前項ノ納稅種目及納稅額ニ代ヘ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ金額ヲ記載スベシ

第二條 商工會議所選舉人名簿ヲ調製シタルトキハ十四日間以上其ノ事務所又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供スベシ

第三條 商工會議所ハ縱覽開始ノ日前三日迄ニ縱覽ノ期間及場所ヲ告示シ地方長官ニ之ヲ届出ツベシ

第四條 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ不服アルトキハ縱覽期間内ニ商工會議所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五條 前項ノ申立アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ決定ヲ爲シ異議申立人又ハ關係人ニ之ヲ通知スベシ

第六條 前項ノ決定ニ不服アル異議申立人又ハ關係人ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第七條 選舉人名簿ハ縱覽期間満了後二十日ヲ經テ確定ス

其ノ平均額以上ヲ納ムル者ヲ一級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス但一級選舉人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納稅最多キ者議員定數ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス、兩級ノ間ニ同額ノ經費ヲ納ムル者二人以上アルトキハ選舉權ニ關スル條件ヲ具備シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル、其ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ニ依リ年數ニ依リ難キトキハ商工會議所ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムベシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ二分ノ一ヲ選舉ス

第二條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉區又ハ投票區ヲ設ケルコトヲ得但シ級別選舉ヲ行フ場合ニ於テハ二級選舉ニ限リ選舉區ヲ設ケルコトヲ得

各選舉區ニ依テ選舉スベキ議員數ハ各區ニ於ケル選舉人ノ數ニ應ジ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三條 商工會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日及毎年一回定款ノ定ムル期日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スベシ但シ級別選舉ヲ行フトキ又ハ選舉區若ハ投票區アルトキハ級別又ハ選舉區若ハ投票區毎ニ之ヲ調製スベシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名又ハ名稱、出生ノ年月日、住所、營業ノ種類、納稅種目及地區内ニ於ケル納稅額ヲ記載スベシ但シ地區内ニ住居ヲ有セザル者ニ付テハ地區内ニ於ケル營業場ヲ記載シ其ノ數二以上アルトキハ其ノ一ヲ選定シテ之ヲ記載スベシ

商工會議所法施行規則第十一條ニ規定スル金額以上ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ヲ有スル會社納稅ニ關スル條件ヲ具フル場合ニ於テハ前項ノ外資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ金額ヲ、其ノ條件ヲ具

前三項ノ規定ニ依リ名稱ノ調製、追加、縱覽、確定及異議申立ニ對スル商工會議所ノ決定ニ關スル期日及期間ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第八條 商工會議所ハ選舉ノ期日二十日ヨリ迄ニ選舉場(投票場ヲ含ム以下之ニ同シ)、投票ノ日時及選舉スベキ議員數(級別選舉ヲ行ヒ又ハ選舉區アル場合ニ於テハ各其ノ配當議員數)ヲ告示スベシ、選舉區又ハ投票區ヲ設ケル場合ニ於テハ併セテ其ノ區別ヲ告示スベシ

第九條 投票區ヲ設ケル場合ニ於テハ併セテ其ノ區別ヲ告示スベシ

第十條 投票區ニ關シ關係者ニ於テ不服アルトキハ投票開始ノ日前五日迄ニ之ヲ告示スベシ

第十一條 商工會議所ノ議員ノ選舉ニ付テハ商工會議所ノ理事又ハ地方長官ノ指定シタル官吏選舉長ト爲リ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十二條 選舉長ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スベシ但シ選舉區アルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ選任スベシ

第十三條 投票區アルトキハ選舉長ノ指名シタル者投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

職務ヲ爲シ其ノ他選舉場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ投票管理
者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハザルトキハ之ヲ選舉場外ニ退出セシムベ
シ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコト
ヲ得但シ選舉長又ハ投票管理責任者選舉場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル
場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨グズ

第十二條 選舉人又ハ代人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉場ニ到リ
選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スベシ

投票時間内ニ選舉場ニ入りタル選舉人又ハ代人ハ其ノ時間ヲ過グルモ
投票ヲ爲スコトヲ得
自ラ被選舉人ノ氏名又ハ名稱ヲ書スルコト能ハザル者ハ投票ヲ爲スコ
トヲ得ズ

投票用紙ハ商工會議所ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フベシ

選舉區又ハ投票區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ
異動ヲ生ズルコトアルモ前所屬ノ選舉區又ハ投票區ニ於テ投票ヲ爲ス
ベシ

投票區ニ於テ爲シタル投票ハ投票管理責任者少クとも一人ノ投票立會人ト
共ニ投票函ノ儘ニ之ヲ選舉長ニ送致スベシ

第十三條 確定名簿ニ登錄セラレザル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ但シ選
舉人名簿ニ登錄セラレキ旨ノ地方長官ノ裁決書ヲ所持シ選舉ノ當日
選舉場ニ到リ選舉人又ハ代人ハ此ノ限ニ在ラズ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラレコトヲ得ザル
者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ選舉ノ當日選舉權ヲ有セザル者ナ
ルトキ亦同シ

第十四條 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス、可否同
數ナルトキハ選舉長又ハ投票管理責任者之ヲ決定ス

投票區ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人又ハ代人不服アルトキ
ハ投票管理責任者ハ假ニ投票ヲ爲サシムベシ

前項ノ投票ハ選舉人又ハ代人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ
其ノ氏名ヲ記載シ、代人投票ノ場合ニ於テハ選舉人ノ氏名又ハ名稱ヲ
モ記載シ之ヲ投函セシムベシ

投票管理責任者又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選舉人又ハ代人ニ對シテモ
亦前二項ニ同シ

第十五條 會社及無能力者ハ左ニ掲グル者ニシテ帝國臣民タル能力者ノ
中ヨリ其ノ代人ヲ定ムベシ

一 會社ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ登記シタル
支配人
二 無能力者ニ在リテハ親權者、後見人、保佐人又ハ夫
一人ニシテ同一商工會議所ニ於テ二人以上ノ選舉人ノ代人ト爲ルコト
ヲ得ズ
代人ハ其ノ代人タルコトヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ投票管理責任者ニ提出
スベシ

第十六條 商工會議所ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示シ地方長官ニ之ヲ届出ツ
ベシ

第十七條 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日(投票區アルトキハ總テノ投
票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日)選舉立會人立會ノ上投票函ヲ
開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スベシ
前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ヅ第十四條第二項及第四項ノ投
票ヲ調査スベシ、其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス、可否
同數ナルトキハ選舉長之ヲ決定ス

第十八條 選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スベシ
又災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハザルトキハ商工會議所ハ更ニ開票
ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示スベシ、此ノ場合ニ於テ選舉場ノ變更ヲ要
スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スベシ

商工會議所前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ地方長官ニ之ヲ届出ヅベシ

第十八條 選舉人又ハ代人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開
票開始前ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
一 成規ノ用紙ヲ用キザルモノ
二 現ニ商工會議所議員ノ職ニ在ル者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタルモノ
三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタルモノ
四 被選舉人ノ何人タルカヲ確證シ難キモノ
五 被選舉權ナキ者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタルモノ
六 被選舉人ノ氏名又ハ名稱ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職
業、身分、住所又ハ教稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
七 被選舉人ノ氏名又ハ名稱ヲ自書セザルモノ

連名投票ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ前項第一號、第六號及第七號
ニ該當スルモノ並ニ其ノ記載ノ人員選舉スベキ定數ニ過ギタルモノハ
之ヲ無効トシ前項第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分
ノミヲ無効トス

第二十條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス、可否同數ナルトキハ選
舉長之ヲ決定ス

第二十一條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ投票ニ
記載スベキ被選舉人ノ數ヲ有效投票ノ總數ニ乘ジ選舉スベキ議員ノ數

數ナルトキハ選舉長又ハ投票管理責任者之ヲ決定ス

投票區ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人又ハ代人不服アルトキ
ハ投票管理責任者ハ假ニ投票ヲ爲サシムベシ

前項ノ投票ハ選舉人又ハ代人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ
其ノ氏名ヲ記載シ、代人投票ノ場合ニ於テハ選舉人ノ氏名又ハ名稱ヲ
モ記載シ之ヲ投函セシムベシ

投票管理責任者又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選舉人又ハ代人ニ對シテモ
亦前二項ニ同シ

第十五條 會社及無能力者ハ左ニ掲グル者ニシテ帝國臣民タル能力者ノ
中ヨリ其ノ代人ヲ定ムベシ

之ヲ定ム

第二十五條 當選者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定ム得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 當選ヲ辭シタルトキ

二 教職若ハ教職選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第四項ノ規定ニ依リ一ノ級若ハ選舉區ノ當選ニ應ジ又ハ抽籤ニ依リ一ノ級若ハ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ級若ハ選舉區ニ於テ當選者トラザルニ至リタルトキ

三 第二十二條ノ規定ニ依リ當選者ト失ヒタルトキ

四 死亡者ナルトキ

五 第四十五條ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキ

前項ノ事由前條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テハ第二十一條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十一條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ト定ムベシ

前項ノ場合ニ於テ選舉ノ期日後ニ被選舉權ヲ有セザルニ至リタルトキハ當選者ト定ムルコトヲ得ズ但シ納税ニ關スル條件ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二項ノ場合ニ於テハ商工會議所ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示シ地方長官ニ之ヲ届出ツベシ

第一項ノ期間ハ第二十八條第三項ノ規定ノ適用ヲ受ケル場合ニ於テハ商工大臣ノ裁決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期満了前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハズ但シ議員定數ノ三分ノ二ニ滿タザルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 第二十四條第三項ノ期間ヲ經過シタルトキ若ハ同條第四項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第四項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ商工會議所ハ遲滞ナク當選者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ告示シ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第三條第二項但書ノ規定ハ前項ノ當選者ノ住所ニ付之ヲ準用ス

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルニ至リタルトキハ商工會議所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ告示シ之ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第二十七條 會議議員ニ當選シタルトキハ當選確定ノ日ヨリ五日以内ニ商工會議所法第二十條ノ代表者ノ氏名、住所及會社ニ於ケル地位ヲ商工會議所ニ届出ツベシ代表者變更ノ場合亦同シ

第二十八條 議員ノ選舉法令又ハ定款ニ違反シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ズル場合ニ於テハ商工會議所又ハ選舉人ハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第二十四條第一項又ハ第二十六條第三項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ選舉又ハ當選ノ取消ヲ商工大臣ニ申立ツルコトヲ得

選舉人前項ノ申立ヲ爲ストキハ商工會議所ヲ經由シテ申立書ヲ商工大臣ニ差出スベシ此ノ場合ニ於テハ商工會議所ハ意見ヲ附シ七日以内ニ商工大臣ニ之ヲ進達スベシ

第二十五條、第二十九條第一項、第三項又ハ第三十條ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ付第一項ノ取消ノ申立アリタル場合ニ於テハ商工大臣ノ裁決アル迄之ヲ行フコトヲ得ズ

第二十九條 商工會議所法第五十條ノ規定ニ依リ選舉ノ取消アリタルトキハ商工會議所ハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ

第三十一條ノ二 地方長官第八條、第二十四條又ハ第二十六條ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ事項ヲ商工大臣ニ報告スベシ

第三十二條 本則ニ依リ異議ノ申立、裁決ノ申請及選舉又ハ當選ノ取消ノ申立ニ關シテハ訴訟法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ二月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選者得票ハ得シメ又ハ得シメザル目的ヲ以テ選舉人、代人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ優應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

二 當選者得票ハ得シメ又ハ得シメザル目的ヲ以テ選舉人、代人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル組合、會社其ノ他ノ法人等ニ對スル債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

三 投票ヲ爲シ若ハ爲サザルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人、代人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ

四 議員候補者タルコト若ハ議員候補者トラントスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者トラントスル者ニ對シ又

商工會議所法第五十條ノ規定ニ依リ當選ノ取消アリタルトキハ商工會議所ハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムベシ、此ノ場合ニ於テハ第二十五條第三項、第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ若ハ定數ニ達セザルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フベシ

第二十五條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ付之ヲ準用ス

第三十條 議員中間員ヲ生シタル場合ハ第二十一條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ト定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第二十五條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ヲ受ケル者ナク若ハ前項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト定ムルモ仍其ノ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ商工會議所ニ於テ必要ト認ムルトキハ三月以内ニ補選選舉ヲ行フベシ

第二十五條第五項及第六項ノ規定ハ補選選舉ニ付キ之ヲ準用ス

補選議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スベシ

ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第一號又ハ第二號ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ

三 議員候補者タルコト若ハ議員候補者トラントスルコトヲ止メタルコト、當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲スコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者トシシ者、議員候補者トラントシタル者又ハ當選人トシシ者ニ對シ第一號ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ

六 第一號若ハ第三號乃至第五號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ第三號乃至第五號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號若ハ第四號ノ誘導ニ應ジ若ハ之ヲ促シタルトキ

七 前各號ニ掲グル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

第三十五條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉人、代人、議員候補者、議員候補者トラントスル者、選舉運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

二 交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキ

三 選舉人、代人、議員候補者、議員候補者トラントスル者、選舉運動者若ハ當選人又ハ其ノ關係アル組合、會社其ノ他ノ法人等ニ對スル債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選舉人、代人、議員候補者、議員候補者トラントスル者、選舉運動者又ハ當選人トラントシタルトキ

第三十六條 選舉長、投票管理者、立會人、選舉監視者等選舉事務ニ關

保アル者、選舉人又ハ代人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名若ハ名稱ヲ表示シタルトキハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛偽ナルトキ亦同シ

第三十七條 選舉場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人若ハ代人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名若ハ名稱ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラズシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 選舉長、投票管理者、立會人若ハ選舉監視者ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ、選舉場ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ扣留、毀壞若ハ奪取シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十九條 選舉ニ關シ刀劍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルベキ物件ヲ携帯シタル者ハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ物件ヲ携帯シテ選舉場ニ入りタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラズ第三十四條、第三十五條及第三十七條乃至前條ノ罪ヲ犯シシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ新聞紙及雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ限ス

第四十一條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラズ左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス、新聞紙及雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例

〔山梨警〕

ニ依ル

一 當選ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ議員候補者ノ身分、職業又ハ經歷ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタルトキ

二 當選ヲ得シメザル目的ヲ以テ議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタルトキ

第四十二條 選舉人又ハ代人ニ非ザル者投票ヲ爲シタルトキハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名又ハ名稱ヲ詐稱シ其ノ他詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 選舉長、投票管理者又ハ立會人正當ノ事由ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ闕クシキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第三十一條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 當選人其ノ選舉ニ關シ本則ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス會社ガ當選人ナル場合ニ於テ其ノ選舉ニ關シ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ登記シタル支配人本則ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ其ノ當選ニ付亦同シ

附則

本則ハ商工會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和三年一月一日ヨリ施行)

商業會議所議員選舉規則ハ之ヲ廢止ス

商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ニ付テハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間仍從前ノ規定ニ依ル

附則 (昭和四年商工會議所第十號)

●舊刑法

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前行ヒタル選舉ニ於テ第二十一條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザル者アル場合當選者第二十五條第一項ニ掲グル事由ニ該當シタルトキ、商工會議所法第五十條ノ規定ニ依リ當選ノ取消アリタルトキ又ハ議員中間員ヲ生ジタルトキハ從前ノ規定ニ於テ選舉會ヲ開キ直ニ當選者ヲ定ムベキ場合ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

本則施行前補選ノ爲第八條ノ告示ヲ爲シタルトキト雖モ仍投票ヲ行ハザルトキハ本則ニ依リ選舉ヲ行フコトヲ要セザル場合ニ限リ商工會議所ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ補選舉行ハザルコトヲ得但シ第八條第二項ノ告示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ商工會議所ハ其ノ旨ヲ告示シ商工大臣ニ之ヲ届出ヅベシ

第四十五條中追加シタル規定ハ本則施行前行ヒタル選舉ニ關シテハ之ヲ適用セズ

明治十三年七月十七日
太政官布告第三十六號

(明治四十年法律第四十五號ヲ以テ廢ス、明治四十一年法律第二十九號ニ依リ尙有效ノ條項ヲ存ス)

第一編 總則

第二章 刑例

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

7c39

第三編 高等 第一章 高等警察

- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵備ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラズ
- 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス
- 八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
- 九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權
- 第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

- 第四章 信用ヲ害スル罪
- 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
- 第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔二圖以上二十圖以下ノ罰金ヲ附加〕ス
- 第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔三圖以上三十圖以下ノ罰金ヲ附加〕ス
- 第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔四圖以上四十圖以下ノ罰金ヲ附加〕ス
- 第二百三十六條 圖書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔五圖以上五十圖以下ノ罰金ヲ附加〕ス

以下ノ罰金ヲ附加〕ス

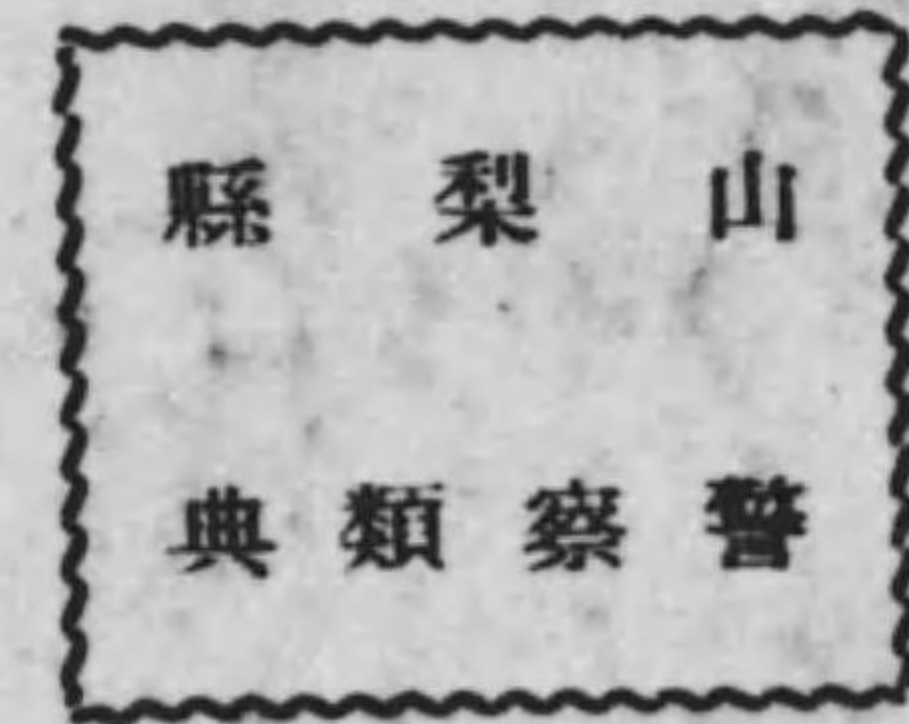
- 第五章 健康ヲ害スル罪
- 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪
- 第二百四十六條 〔傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圖以上二百圖以下ノ罰金ニ處ス〕
- 第二百四十七條 〔船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セザル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ〕
- 第二百四十八條 〔傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圖以上百圖以下ノ罰金ニ處ス〕
- 第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ又ハ五圖以上五十圖以下ノ罰金ニ處ス
- 第三編 (身體)財産ニ對スル重罪輕罪
- 第二章 財産ニ對スル罪
- 第四節 家資分散ニ關スル罪
- 第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス
- 第三百八十九條 家資分散ノ際賄賂ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私債シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第三編 高等(終)

〔山梨警〕

7c39

昭和十二年七月二十七日 臺本印刷
昭和十二年七月三十日 臺本發行



山梨縣警察部編纂

發行者 大谷仁兵衛
株式帝國地方行政學會取締役社長
東京市京橋區銀座西七丁目壹番地

印刷者 大谷保
東京市京橋區銀座西七丁目壹番地

印刷所 行政學會印刷所
東京府立川町三九五番地

發行所

東京市京橋區銀座西七丁目
電話銀座六六〇一六六三
振替口座東京一三番

株式帝國地方行政學會

4039

